エスペラント研究

JARO XVII N-RO 5

KASTELO EN HIKONE

REVUO ORIENTA

1936

MAJO

APANA ESPERANTO-INSTITUTO

LA REVUO ORIENTA 目 次 JARO XVII, N-RO 5, MAJO, 1936

第二百號を出すに當つて …… 153
フランス文學とエスペラント ……筧 太 郎（譯） 154
永田拓相と語る …… 156
明年夏の世界教育會議を打診 ……岡 本 好 次 158
エスペランチストは獨善主義をすてよ ……貴 司 山 治 160
北より南へ ……久保貞次郎 161
特使に托された九州各地方會の希望とそれに對するお答へ ……學會事務部 173
內外報道 ……編 輯 部 175
エス運動後援會報告 …… 184

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團法人 **日本エスペラント學會**

東京市本鄉區元町一の一三

—【電話小石川(85)5415番— 振替口座東京11325番】—

世界エス運動の中心機關**萬國エスペラント協會**(**UEA**)に對し我國を代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

目的 エスペラントの普及、研究、實用

事業
(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表
(b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次
(c) 講演會講習會の開催及後援
(d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業

會費
(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓
(c) 賛助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上
(e) 終身維持員 一時金100圓以上

維持員へは La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなすことあり

本會の入會手續 普通維持員を除く他の維持員はすべて**萬國エスペラント協會**(UEA)の普通會員 (simpla membro) となる
住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次內外圖書目錄要郵券二錢

役員名簿（五十音順）

理事長 大石和三郎
理事 元東北大總長 井上仁吉
同 井上萬壽藏
同 上野孝男
同 小坂狷二
同 中大教授 川原次吉郎
同 文博 黑板勝美
同 東朝部長 土岐善麿
同 醫博 西成甫
同 藤澤親雄
同 監督局長 前田穰
同 博 望月周三郎
同 柳田國男
同（常任） 大井學
理事（常任） 三石五六
同（同） 美野田琢磨
監事 醫博 鈴木正夫
同 堀眞道
同 清水勝雄
顧問 法博 穗積重遠
同 子爵 三島章道

JARO XVII, N-RO 5 MAJO, 1936

LA REVUO ORIENTA

第二百號を出すに當つて

大正 9 年 1 月に創立早々の本學會の機關誌として孤々の聲をあげた本誌は本號を以て正に通算第二百號を發行することになりました。過去17年をふりかへつてみるに本學會の發展と共に本誌も一段の飛躍をとげ第一卷の時代は表紙とも16頁といふ貧弱さであつた本誌が今日は表紙の外に本文 40 頁廣告 4-8 頁といふ相當の充實振を示してゐます。正に創刊號に比して倍の膨脹であります。しかも菊判 40 頁のエス雜誌は分量の點でどこの國のエス雜誌にもまけないといつてよく又內容に於てもあえて遜色がないと思ひます。その上エス雜誌はとかく發行が遲延するもので週刊のヘロルド誌の如く正確に發行されてゐるのも稀にはありますが二號三號を合併して出したり甚しいのは一年も二年も休刊するといふものや三號雜誌で終つてしまうものもある。我エス界に於て本誌が創刊以來每月一回一度の休刊もなく今日までつづけて來たことは誇るに足ることであると思ひます。これは日本には未だ嘗て類例のないことでありますが世界にも類の少いことであります。

とにかくこの 17 年間の本誌の健實な歩みは相當他に誇示し得るものであると思ひます。併し我々は小成に安んじてはなりません。これだけのこと位で滿足してはなりません。戒心 層今後の飛躍にそなへねばなりますまい。

猶來る 6 月 12 日は本學會の前身たる日本エスペラント協會が明治 39年に創立されてから滿30年にあたる紀念すべき日であります。卽ち我國に組織的エス運動が興つてから正に滿30年になるのであります。

本誌が第 200 號を出すといふ紀念すべき時期に殆んど時を同じうして我國エス運動の 30 周年を迎へたことは奇緣といふべきでありませう。

我々はこの機會に過去 30 年のエス運動を回顧しその成果を研討し之を以て我々の將來すすむべきの道を知るよすがとすることは最も緊要の事といつてよいと思ひます。古人も『古きをたづねて新しきを知る』といつてゐるのはここのことでありませう。

我々はお互に三十年の過去を回顧しその成敗得失のあとをたづね前車の覆轍に戒め今後の運動の爲益々奮闘努力をちかひたいと存じます。(J. O.)

〔おことわり〕 こういふ意味で本號を第二百號紀念の特輯倍大號として我國エス運動史及その資料を取扱つたものを滿載の豫定で鋭意編輯中でありましたが別項記載の樣に種々の事情のため準備が不能となり次號を特輯號とすることに豫定を變更し5 月に入つてから急に本號を出すことになりましたので御覽の樣な常とちがつた體裁及び頁數になつたことをここに深くおわび申上げます。

フランス文學とエスペラント

G. WARINGHIEN
筧　太郎　譯

（完）

第 18 世紀は殆ど譯家の興味を惹かなかつた。散文では次の如きものが數へられる。

Bernardin de Saint-Pierre（ベルナルダン・ド・サン・ピエール）: Paul et Virginie (Paŭlo kaj Virginio, H. Hodler, 1905)

Le Sage（ル・サージュ）Gil Blas de Santillane (Ĝil Blas de Santillana, R. Busquet) 此の譯に就ては何等知る處が無いが、或は部分譯ではなからうかと考へる。

Abbé Prévost（プレヴォ）: Manon Lescaut (Manon Lescaut, D-ro Vallienne, 1908, 188 p.)

Voltaire（ヴォルテール）: Traité de Métaphysique (Metafizika Traktato, A. Giraud, "Germana Esp-a Gazeto" 1911-12) 此の飜譯に關しては何も知らない。

*——: Candide (Kandid, E. Lanti, 1929, 162 p.) ヴォルテール一流の文體の明澄性と流動性をも再現せる優秀なる飜譯である。

次に戲曲方面では、

*Brueys et Palaprat: L'Avocat Pathelin (Advokato Patelin, M.-J. Evrot, 1904, 44 p.) 之は十五世紀戲曲よりの飜案である。

Beaumarchais（ボーマルシエ）: Le Barbier de Séville (La Barbiro de Sevila, Samuel Meyer, 1909, 64 p.)

——: Le Mariage de Figaro (Edziĝo de Figaro, A. Kofman, 1898, 24 p.) 此の奇怪なる飜譯は第一幕が出てゐるのみであるが、其の內に於て既に次の如き新造語が見出される。tuazo, promocio, eskudo, duenjo, impozi, furba, toko, kvartreno の如きもので、兎も角も斯う言つた總てがザメンホフの主宰するエス語圖書の一大集成中には存在する次第なのである。

此の他に尙飜譯の光榮に値する作品がある。其の多くは何れも獵奇的或は惡の興味を有するもので今之を記せば、

Voltaire: Zadig; Lettres d'Amabed 其の他

Diderot: Le Neveu de Rameau; Jacques le Fataliste 其の他

Rousseau: Les Rêveries d'un Promeneur Solitaire 其の他

戲曲では Marivaux の "Le Jeu de l'Amour et du Hasard" 其の他多數の作品、Le Sage の "Turcaret", Beaumarchais の "Mariage"

又韻文では A. Chénier の "Bucoliques" の如きである。

第 19 世紀は最も譯業華かなる時代である。譯出作品を列記すれば次の如くである。散文に於ては、

Edmond About: Le Roi des Montagnes (La Reĝo de la Montoj, G. Moch, 1909, 245 p.)

Balzac（バルザック）: Eugénie Grandet (Eŭgenino Grandet, E. Gasse, 1909, 226p.) 極めて良心的飜譯であるが、-iz 及 -oz の如き Ido の接尾辭の濫用に依り代なしである。

*——: Vendetta (Vendetta, M. Merckens, 1927, 51 p.)

*——: La Maison du Chat qui Pelote (La Firmao de la Kato kiu Pilkludas, Paul

Benoît, 1924, 75 p.) 之等兩譯書は獨逸にて Ellersieck 叢書より刊行されたものである。

Chateaubriand (シャトブリアン): Le Dernier Abencérage (Abenturoj de l'Lasta Abencerâĝo, R. Deshays, 1907) 自分は此の譯書を手に入れかねてゐる。

Flaubert (フローベル): La Légende de Saint Jean l'Hospitalier (La Legendo de Sankta Juliano Helpema, H. Hodler, 1907) 譯は "Esperanto" 誌上に掲載されたものである。

A. Houssaye (ウセイエ): Le Royaume des Roses (Reĝlando de Rozoj, P. Champion, 1908)

V. Hugo (ユーゴ): Les Misérables (La Mizeruloj, ? ? ?) 此の譯書に就ては何等知ることが出來ない。然し相當重要のものと言ふべく、恐らく原作の第一篇を譯したものであらう。戰前の譯である。

*X. de Maistre (メーストル): Voyage autour de ma Chambre (Vojaĝo interne de mia Ĉambro, Samuel Meyer, 1904, 58 p.)

*Mérimée (メリメ): Carmen (Karmen, Sam. Meyer, 1911, 56 p.)

*——: Matteo Falcone et autres contes (Matteo Falcone kaj aliaj rakontoj, J. Borel 1924, 59 p.)

*A. de Musset (ミュツセ): Les Deux Maîtresses (La Du Amatinoj, Van Schoor, 1925) 後出 "La Kapricoj de Marianne" と併せて一册。

*——: Mimi Pinson, (Mimi Pinson, M. Rethel, 1934, 44 p.)

P. de Musset: Monsieur le Vent et Madame la Pluie (Sinjoro Vento kaj Sinjorino Pluvo, P. Champion, 1910, 124 p.)

E. Renan (ルナン): Vie de Jésus (Vivo de Jesuo, E. Gasse, 1907, 182 p.) 譯は惡くはないが、supersigno 附活字を使用し得ず ch, gh, hh, sh の如き疊字を用ゐてゐる點は奇妙である。

戲曲にて飜譯されたるものは、

A. de Mussset: Il faut qu'une porte soit ouverte ou fermée (Pordo devas esti fermata aŭ malfermata, D-ro Rattier, 1908) 譯は表題の譯し振り (fermata と malfermata 逆) から察しても可成り酷いものに相違ないが、ブダペシュト市から出てゐる "La Verda Standardo" に掲載されたものである。

——: On ne badine pas avec l'amour (Ne ludetu kun la amo, H. kaj G. Stroele, 1911) 此の譯は "La Revuo" に出たもの。

——: Fantasio (Fantazio, P. Berchelot, 1911–12) 之も "La Revuo" に出た。

*——: Les Caprices de Marianne (La Kapricoj de Marianne, Van Schoor, 1925, 122 p.)

*Tristan Bernard (ベルナール): L'anglais tel qu'on le parle (Angla Lingvo sen Profesoro, G. Moch, 44 p.) 輕妙明澄、優秀な譯である。

韻文では何も飜譯されてゐない。尙次の如き外國作家の佛語に依る作品を玆に附記する必要がある。

Oscar Wilde (ワイルド): Salomé (Salome, H. J. Bulthuis, 1910, 40 p.)

P. Spaak: Kaatje (Katje, W. van der Biest, 1911, 111 p.) 之はアントワープ市に於け

る第一回大會にて演出された。

M. Maeterlinck（メーテルリンク）: Aladdine et Palomidès (Aladino kaj Palomido, S. Eliot) 此の譯に就ては何も知らない。

*J.-J. Porchat（ポルシャ）: Sous la Neige (Sub la Neĝo, J. Borel, 1923, 120 p.)

第 20 世紀 に對する記事は甚だ簡單である。卽ち此の世紀は何れも大會用として譯出された戲曲僅々二篇に依つて代表されてゐるに過ぎない。

*Ch. Richet（リシェ）: Socrate (Sokrato, J. Couteaux, 1914, 102 p.) 此の譯は散文詩形に依り、1914 年の巴里大會に於て演出される筈であつた。

*J. Romains（ロマン）: Knock (Knock, P. Corret, 1932, 80 p.)

以上に依つて第 19, 20 兩世紀には夥しい逸脫の有ることが判る。乍併之は屢々禁止的である處の著作權法と大戰に基く其の期間延長の結果であつて、如何とも致方なき處である。現に 1880 年に歿したフローベルの如きも今猶其の版權は開放されてゐない。さう言へば P.-L. Courier: "Pamphlets"; Michelet: "Jeanne d'Arc"; Vigny: "Servitude et Grandeur" 及び "Stello"; Mérimée: "Colomba"; Hugo: "Notre-Dame de Paris" やアレクサンドル・デュマの歷史小說 "Travailleurs de la mer" の第二篇も飜譯圈外にあるやうである。尤も著作權ある作品の中でも或ものは特別の協定が成立した。卽ちモーパサンの "Contes" も、フローベルの "Madame Bovary" "Trois Contes"（既に其一つは飜譯された）も譯者に對して甚しい財的大障碍は齎さなかつた。更に之等よりも新しい作品 (A. France, Zola, Roger Martin du Gard, J. Romains 等が飜譯し得たら甚だ好いのであるが) に付ては一に出版者の好意の問題である。

最後に最も急を要すると考へる仕事は既刊の白耳義、カタロニヤ、匈牙利及瑞典の詞華集 (Belga Antologio, Kataluna Antologio, Hungara Antologio, Sveda Antologio,) に範を取つた Franca Antologio (佛文學詞華集) の刊行であると言ふことを述べ度い。之はなかなかの大事業であり卷數も最少三卷を必要としよう。乍併吾佛文學は此の勞作に値するものと自分は考へる。願くば隱れたる文藝擁護者の出でて玆に想到されんことを。(註)

(註) 詞華集に付ては現在迄の處 "El Franca Literaturo" と題する小冊子が出てゐるのみである。之は頗る鑑賞眼の高い編纂振りである。甚だ殘念乍ら日本で發行されたものであることを附記せねばならぬ。(N. Kawasaki 編, JEI, 1935, 68 p.〔完〕

〔本誌編輯部註〕 (1) 上記論文中佛文學者名の發音にカナを施したのは一般宣傳家の便宜を考へて編輯部でなしたものである。(2) 上記 Antologio の外に Estona Antologio, Ĉeĥoslovaka Antologio, Pola Antologio, Bulgara Antologio 等あり。

永田拓相と語る

岡　本　生

我等の熱心な支持者永田秀次郎氏は廣田內閣成立と共にあげられて拓務大臣の要職につかれた。去る 1 月末鐵道エス聯盟の矢島君が車中で同氏に遭つた時同氏は明年の世界教育會議に於てエス語使用の必要を力說され大いに各方面をといてゐるとのべられたことは既に本誌で報じた所である(本誌 3 月號參照)。その節同氏は矢島君に東京での再會を約されたのであつたがそ

の後の情勢はやや變じて永田氏は自由の立場から拓務大臣といふ顯職に就任してしまつた。大臣となつた同氏に祝意を表し今後とも拓相御就任前の氣持で明年の世界教育會議におけるエス語の活用についても大いにお願ひすべく 4 月 4 日の學會でのエス運動座談會の席上我々の間で相談がまとまり久保、矢島、岡本の三人で同氏に會見することにきめた。

そこで善はいそげと早速 4 月 6 日（月曜日）の朝勢揃ひの上丸之内の拓務省へ出掛けた所芝の大臣官邸へゆけとの事で右官邸へ行つた。門前は事變後で警戒がやや嚴重だつた。

ところが大臣になられた永田氏は豫想以上の御多忙なので朝の中に電話で面會を打合せた者でなければあはせないといふ側近の人々のかたい鐵則が動かすことができぬのでやむなく柳瀬拓相秘書官にあつて用件の一部を申上げ且なるべく近日中にぜひ面會していただきたい旨取次いでもらふ樣にたのんで引上げた。

それからどうしても拓相にあはうといふので更代で毎朝永田氏私邸へ電話で面會をお願ひしたが御多忙のため思ふにまかせなかつたがやつと 4 月 12 日朝になつて 14 日午後 5 時過日本倶樂部で逢はうと云う御返事をえたので一同勇躍集合日時の打合せをした。猶學會理事井上氏（鐵道省事務官）も時間の都合が出來そうだといふので四人で會見の手筈をきめた。

14 日午後 4 時鐵道省に勢揃ひをしたが午後 5 時になつても井上氏は會議が豫定より長引いたので手がはなせず矢島氏と共に後刻來られることにして久保、岡本の兩人でまづ日本倶樂部へかけつけた。

午後 5 時 10 分頃ついたがまだ見えられてゐない。應接室でまつてゐると 30 分位して長身偉軀の拓相が階段を入つてこられた。早速ボーイが當方の名刺をとりついでくれたので倶樂部左手の面會室へ來いとの事であつた。

兩人が出かけてゆくと立つたままでをられた拓相は「今日も忙しくて長く話してをれないが一體どういふ用件かね」ときりだされた。

それでこちらからは拓相就任の御挨拶もそこそこに「實に明年の世界教育會議のことでぜひエスペラントを會議に活用してもらひたいと存じますので先達鐵道の矢島にもお話下さつた通りぜひ先生のお骨折を願ひたく存じます」と申上げた所「實はわしも忙しくなつたので帝國教育會長の方は辭職願を出したのだがまだ仲々きいてくれぬ。ここ二三日中に教育會の役員會があるから行つた時よく話しておこう。しかし會議の方の仕事は專ら大島と松井がやつてゐるが大島は始終おらないから松井に一度あつて話してみてもらひたい」といつて早速名刺に紹介を書いて手渡して下さつた。

それから帝國教育會長もつづけてやつていただくことを我々エスペランチストが祈つてゐることや明年の萬國教育會議にぜひエス語を入れるため永田氏の側からも大いに働きかけていただく樣お願ひ申上げた。それから「我々の仲間に平生文部大臣とごく親しくしてゐるものがありますのですが文相もエス語には大いに理解をもつてをられるときいてをります。萬國教育會議はやはり文部省に關係のふかいことですから文相へもよろしくお話をお願ひ致します」と申上げた所「そうか、それはよい、何日か平生に話してみよう」とのべられた。

大體用件もすみ同氏が大臣就任後ももとに變らずエス語に好意をもつてゐて下さることもわかり松井氏への紹介の名刺もいただいたのであまりお手間をとつてはと思ひ井上、矢島氏等もこないので「實は鐵道省の井上もぜひお目にかかりたいと申してをりましたが會議が少しをくれてまだ參りません。よろしくと申してをりました」とのべてお禮をいつて引下つた。

丁度倶樂部の外へ出た所井上矢島の兩君がやつてきたので會見の內容を話した。いい機會だ

からといふので井上氏も一寸敬意を表するのがよからうとの事で中へ入り拓相に面會をたのんだ所再び快くあらはれたのである。永田氏は井上氏に對して萬國教育會議の事は仲々簡單にはきまらないと話されこういふ風な方法が一番よくはないかとのべられそうして君達の方で一つこういふ方面にあたりをつけてみてはどうかその次第によつては自分も口をきいてやらうと話して下さつたそうである。その詳細はこゝに發表せぬがとにかく今後も大いにエス運動のため盡して下さるとの御言葉であつたとの事である。

明年夏の世界教育會議を打診

——萬國會議の內幕がこれでわかる——

岡　本　好　次

永田拓相の紹介の名刺をもつて 4 月 17 日 午後 4 時帝國教育會の外局とも云ふべき第7回世界教育會議の準備に忙殺されてゐる松井驥氏を教育會館の第七回世界教育會議日本事務局へお尋ねする。松井氏との問答は約 1 時間にも亘つてゐるからその一々はここにのべない。唯その要點をかいつまんで次に紹介する。

當方から訪問の要旨として明年夏東京で開かれる世界教育會議の用語として是非エス語をも公用語としていただきたい。又各國の參加者の招待狀その他日本の教育狀態の紹介の册子等々にもエス語を用ひてもらいたいと述べた所松井氏は懇切に詳細にその大會の成り立と帝國教育會との關係公用語問題を次の如くのべられた。

「實はその世界教育會議といふのは東京で開かれますがその主催者といふのは米國に本部を置く The Federation of World Education Associations といふものでそれに加入してゐる團體は世界各地にありますが特に米國に澤山あります。我國では帝國教育會唯一つです。そして今度もこちらで東京へ招待したといふ程度であつてすべて議事その他は右の米國の本部が中心になつて開くわけですから結局各會議の議長もアメリカ人が多いでせう。そんな關係で公用語は英語に限るようです。

この前の大會はエヂンバラであつたのですがドイツ語やフランス語で研究を發表した人も(英語が大部分)多少あつたらしいですが報告集をみると全部英語になつてゐます。今度もですから日本語を禁止するといふことではないでせうが公用語は英語だけでせう。

そんなわけですから公用語にエスペラントをといふ問題は米國の本部と交涉しない限り不可能です。

その上來年の右の大會に出席する外國の人々は目下の豫想では全體の八割が英語國民なのです。その點からも英語が斷然優勢だと思ひます。

次に私の今仕事してゐるここは帝國教育會の外局といつた風な仕事をしてゐるもので帝國教育會直屬ともちがひます。そして我々の仕事は會議についての準備だけを中心にして活動してゐるものです。

外國からの參加者を大いに歡待したりいろいろ案內したりすることについての相談はここでやるのでなくそれは別に總務會といふのがあつてそれには外務省文部省國際觀光局國際文化振興會等の代表者から構成されてゐる會があつて之がその方面のことについて議決するわけですそれですから今日のエスペラント學會からの御申出については私の方からその會へこういつた

陳情があつた旨申つたへますがそれ以上の事は我々の方でできません。

前にのべましたように公用語にエスペラントを用ひるといふことは殆んど問題にならぬことですが併し外國の參加者に出す招待狀とかその他いろいろの印刷物にエスペラントを使ふといふことは別の問題で總務會が採否をきめるのです。エス語をも採用するとなれば御會のお骨折を願ふことになりませう。

招待狀の第一回は英語で發送することに決定しました。第二回以後はドイツ語フランス語スペイン語等にするかどうかはまだ決定してゐません。この前エスペラントも用ひるかどうかについて話に出たときいてゐます。

しかしまあ八割が英語國人であるしドイツからは一人も來ないらしいしフランスにしても教育會代表と政府代表が一名宛位かもう少し來るかといつた具合で非常に少いのです。なんといつても米國が一番多くて約800名です。(全體で外人1200名、英人200-300名らしい)。

といふ話。それで總務會へ當方の陳情取次をお願ひ申し且「一昨年の東京の萬國赤十字會議も私の調べた所では各國の代表といふものは政府代表一名(それも大抵は東京駐在の公使とか領事とかが出席)赤十字代表一名といふ位のものであるのに米國が六七十名の多數で出席した丈もこれらの米國からの出席者は赤十字運動についても殆んど理解のないものまで來たといふ非難があつた位でした。米國では日本觀光につれてゆく位の氣持で赤十字代表を募つたとかききましたが今度の會議はどうですか」ときりこんだ處「いや今度米國からくるのも澤山のことですからこちらでぜひ來てもらひたいといふのでなく來てもらはなくてもよいといふ人々もまじつてゐはしないかと思つてゐます」との返答であつた。

つまり米國といふ國は弗の偉力で世界中へのさばりあるき萬國大會といふ樣なものもこの弗の偉力で米國色にぬりつぶさうといふものらしい。そしてその弗の偉力が米國乃至英國をして世界大會を橫行濶步せしめるものらしい。

しかもこういつた3分2をしめる米人の來る世界教育會議に日本の政府では相當の補助金を出して外人を如何にして歡待しようかと心配してゐるとはお目出度い次第である。

この教育會議は總豫算60萬圓で外人の參加者一人當り歡待費は二三百圓とかのことである。

扨松井氏との公的の話を一通り終へてから少し打寬いだ時同氏は「どうもエスペラントをやつてをられる方は熱心ですね。熱心すぎる位ですね」と述懷されたには些か閉口。

それから世間話學校の話等の後「日本の文學でエスペラントで紹介されたものが相當ありますか」ときかれたのでこれこそいい話題と許りにエス譯されてゐる文學作品の名をあげとにかく學會の雜誌に昨年そのリストをつくつて發表しましたがそれを近々まとめて出版する筈ですと話した所「それはぜひもらひたい」と話され且「外國の參加者にそういつたものを配布するといふことは有意義だと思ふ」といふ意味の事をのべられたのには我が意をつよくした。

やはり理想論はわかつてゐてもそれよりも實際問題實用の問題が一般の人々の興味をひくものだといふことが之で一層よくわかつた。

又萬國會議とは如何なるものかといふ事もこれでよくわかつた。國際聯盟などはもともとウイルソンの理想論からつくられたもの故小國でも一票の權利をもたせてゐるが他のいいかげんの國際會議は金の多い國で代表者を餘計派遣出來る國が勝手をふるまへるものだといふことがわかる。

話の終る頃 Marin 氏を案內して多忙だつた矢島君が寸暇をさいて應援にかけつけて來られ松井氏にいろいろ鐵道省關係のエス語實用のことについて話してくれて大いに認識をふかめる樣努められた。

エスペランチストは獨善主義をすてよ

(4 月 14 日文藝懇話會席上での談話)

貴 司 山 治 (談)

貴司氏は朝日新聞の懸賞に當選した「靈の審判」の作者であるがこの作には Nia Savonto とか何とかさかんにエス語の名前が出てくるので我々同志の間で特に有名な作家であり最近は「文學案内」といふ雜誌を主宰されてゐる。これも Gvidanto Literatura といふエス語の subtitolo を入れてをられる程非常にエス語に好意をもつてをられる方である。この方のエスペランチストについての觀察はいろいろな意味で興味がふかいし且教へられる事が多いと思ふ。

今晩は懇談的に何もかも忌憚なくブチマケて云つてもらひたいといふ先刻のお話もあつたことだから思つた通り申上げる。

エスペランチストが他から嫌はれるといふことについてはいろいろあらうが自分の經驗から云ふと次の様なこともその原因だと思ふ。

エスペランチストは獨善主義とでも云ふかとにかく自分が世の先覺者だといつた氣持で一人超然としてゐてエスペラントをやらぬ人を見下したような態度をとる。こういつた態度はスエペラントをやらぬ人間に不快をおこさしめるのが當然であろう。

又私の知つてゐるエスペランチストが私にK——氏の K——といふ小説をエスペラントに譯してゐるがその中にある T——といふことが何のことかわからぬから譯するのに困るからしらしてくれと云つてきた。いろいろききあはせてもわからない。しまひに O——市にすむ人々を頼み著者(故人)の母親にとひあはせてもらつてやつとわかつた様な次第でさつそくそれを先方へしらせてやつた。こちらではその位につくしてゐるのである。それに自分はそのK——氏の全集を編纂してゐるのでそのK——といふ作品のエス譯が何時どこから出るのかどうするのかきいてやつたが何とも返事をよこさない。卽ちこちらを利用する一方でこちらの役に立つことをしてくれないこんな利己主義ではきらはれるのも無理はない。自分は一般のエスペランチストはそうではないと考へるがこういつた人のあることは遺憾である。

それから又エスペラントを利用していろいろの文藝方面の世界的のニュースをあつめるといふことも不可能でないと思ふ。こういつた通信によつてあつめた面白いニュースも獨りよがりのトーシヤ版刷の同人雜誌位に發表してゐるのでは何にもならぬ。いいニュースや材料は廣く世間に發表したらよいと思ふ。私もそういふのをきいてこちらの雜誌に出したらどうかとたのんでやつたがやはり承諾しない。これなどもやはり骨董いぢりの老人の様に自分一人の寶物として珍しい材料をコツソリ私有してゐようといふサモシイ考への様であるがこんなことはどうかと思ふ。エスペランチストはもつとエスペラントで集めたものを公開せなければならぬ。

私の「文學案内」といふ雜誌の讀者からエスペラント欄をおけといふてくる手紙も多少は來ます。併し實際にエス文で綴つた頁を數頁もつことはエス文のよめぬ讀者には無用のものであるし今時講座でもないと思ふからそれよりもエスペラントであつめたよい材料やニュースをとりいれたいと思つてゐるのである。それに私のしつてゐるエスペランチストは唯エス欄設置といふ様なことをやかましく云ふだけでそういつた風な働きをしてくれない。實際日本語で書いてある文學雜誌に毎月二三頁エス語講義をのせたとてそんな貧弱なものでエス語を獨習しなくとも安くてよい獨習書が澤山ある筈だから本當にエスペラントを獨習する人はそういつたものを利用すればよいのではなからうか。

それよりもエス文といふことにとらはれないでエス語であつめた材料を日本文の雜誌へは日本文で書いて與へる雅量がなければなるまい。自他共に互に利用し利用されるといふ氣持が少くて何とかして自分は利用されずに唯對手だけを利用しようといふ氣持が多いのはよくないと思ふ。對手を利用するにはまづ大いに對手に利用される雅量がなくてはだめだと考へる。

又先達 Ludwig Renn が殺されたといふ報道が日本でひろまつて新聞や雜誌の方面に出た。ところが Renn はころされたのでなく生

きてゐるのだといふ抗議を自分の所へよこしたエスペランチストがあつた。それで自分も重大なことだからと思つてRennの生きてゐるといふ材料やどこから得たニュースかをとひあはせたらこまごまと知らせてくれた。併しエスペランチストはこのRennの生存について前の誤報をたださせる意味で新聞や雑誌によびかけたことはきかない。こんな時にエスペランチストが誤報訂正の勞をとつたらどんなにかよかつたろうと思ふ。そういふ時にエスペランチストが大いに努力しなければならぬと思ふ。そうすればエスペラントの實用性も眞價も發揮されるのだ。一部のエスペランチストは手にいれたニュースを私有物の如く後生大事にもつてゐるのはよくない。

私は諸君がエスペラントをもつと活用してこういつたいろいろの方面のニュースをあつめたりして世間の人々に利益をあたへる様にしなければならぬと思ふ。

私もエスペラントが世界共通語になるといふことは理想として結構と思つてゐるが今日としてはとにかくエスペラントはこういつた國際上の連絡の用語として最も大きな役割を果すべきだと考へます。

諸君がこれから大いに外部へ働きかけられるに當つてエスペラントに好意をもつ外部のものがこういつたことを考へてゐるといふことをお知りになるのも御參考になることと思つて實は忌憚なく申上げた次第ですからあしからず。(文責在記者)

日米學生會議兩國代表

北から南へ

日米學生會議でエス語につき討議

久保貞次郎

★續北米太平洋沿岸訪問記★

ポートランド市で (7月28日——8月4日)

リード大學の前庭。廣々した綠の芝生は一寸日本では想像が出來ない。大學へ通ふ廣い道路が、門も垣根も通らずに校舍の前を通じてゐる。周圍に垣根など面倒なものはないのだ。圖書館、教室、寄宿舍と三つの建物が、蔦に蔽はれて美しい。

“ハロー Good morning!”

“ハロー How do you do?”

と私達45人の日本から渡つて行つた男女學生はこのリード大學の寄宿舍に滯在して、87名のアメリカの學生と毎日圓卓會議を續けて來た。政治、經濟、國際問題、文化及び教育、宗教の分科會。

朝食を贅澤な食堂でとると、私達は大急ぎで、ノート、參考書を抱へ込んで、自分の分科會へ驅け込む。日米學生會議の期間は7月29日——8月3日。討議の合間には、この大學の滯在地、オレゴン州第一の都會ポートランド市の下町へロータリー倶樂部、商工會議所の晝餐に招かれて行く。

この町へ來てからは毎日會議會議でエスペラントのことを忘れたやうだ。UEAの年鑑にはここの町のdelegitoはのつてゐない。そこで出發前に、ワシントンにあるアメリカ、エス運動の總元締たるEANA (Esp-ista Asocio de Norda Ameriko) に手紙を出して、もしポートランド市に同志がゐたら知らせて欲しいと頼んだところ、ハガキの返事が來て、同會の名簿によると同市には一人S-ino何とか云ふ女の同志がゐるきりだとあつた。それでアメリカに來ては自

動車を持つてゐない人間は滿足に人間らしい行動がとれないのだから憶劫になつて、訪問もしないでそのままにしてをいた。

8月1日（金） 美しい青空。綺麗に刈込んだ芝。今更ながらアメリカを感じてゐた朝、アメリカの委員がやつて來て、「君に面會人だ。」と、僕の腕をかかえて講堂の方へ連れ出した。階段へ上りながら、彼は小さな聲で「その人は盲人だよ」と告げた。それで僕は直覺的にその面會人がエスペランチストだなと思つた。果せるかな講堂へはいつて行つてみると、一人の盲人が待つてゐる。早速自己紹介して手をとつて庭に出ながら話しをすると Wilbur Lane 君といふ同志。シアトルのジヤクソン氏から手紙を受けとつて、久保がリード大學にをるから訪ねよとのこと。Lane 君エスペラントを始めて一年半位たつのだが、會話の練習する機會がないので、充分よく話せない。英語とチヤンポンで 15 分程、日本のエスペラント運動の話しなどする。朝の講演の時間が迫つてゐるので再會を約して別れる。

圓卓會議に國際語問題。

その日（8月1日）の午後のことであつた。圓卓討議の議題はあらかじめ、會議の始まる以前に兩國の各部會の Chairman が寄り合つて、かねて通信で連絡をとつてをいた題目を更に詳細に相談して決定するので、大體今日は、何の問題に就き、誰がレポートを讀むかが分つてゐる。そこで私の屬する部會には青山學院の後藤君が加つてゐる、文化及び教育部會であるので國際語問題をとり上げるにはもつてこいだ。しかし國際語に關する議題は全然公式プログラムにはのつてゐない。そこで後藤君と相談して是非會議の中一度は國際語問題をとり上げて、アメリカ側の英語萬能の考へ方に一アワ吹かせてやらうと、手ぐすねをひいて待つてゐた。

とうとう絶好の機會が到來した。

「文化及教育」の部會の出席者は日本側女子 6、男子 5、アメリカ側男女 12 といふ配合。その日の司會者はアメリカ側のプリドーといふ眼鏡をかけた神經質な女學生。會議は Stanford 大學の東洋文化の教授市橋博士の講演をきくことから始まつた。教授は東西文化の接觸から説き始めて、終りの方になつて、どうしたことか、英語がひどく難しい言語だ。この難解の言語を征服して、英米文化を取り入れのことに勞力を惜まない日本人を見るといやに見得を切つてアメリカの學生がアツケにとられてゐる中サツサと引上げて了つた。その次に讀まれたのが津田英學塾の佐々木福子孃の「日本の英語教育」のレポート。この小論文は日本の英語教授の現狀を述べて、最近その能率が上らぬことから、教授法の研究が熾んだと述べてゐる。二三の質とが出て一寸まぎれたとたんに、後藤君元氣よく

「日米學生會議をアメリカでやる際は英語でやるのは至當だが、日本でやる時には日本語でやることにしてはどうか?」と否定的な答を見越してきめ込んだ。果せるかな、アメリカ側 Chairman 以下苦笑して、その到底不可能なことを示せば、日本側も現狀をよく知つてゐるので一緒に笑ひ出す。そのすきに後藤君又もや

「それじやあ會議用語にエスペラントは?」と一刀あびせる。

プリドー議長 「Esperanto is a silly language! (エスペラントなど馬鹿げた言語です。)」

こんな嬉しい返事は願つてもないことだ。

久保 「何故エスペラントは馬鹿げた言語なのか?」

プリドー孃 「Basic English (ベシック、イングリッシュ) の方がまだよい」

久保 「貴女は Basic English といふものが、どんな言語であるかを御存じなのですか。貴女は Basic E. を學ばれたことがありますか?」

と逆襲したところ、議長スツカリ眞赤な顔になつて了ふ。

久保「あなた方は動詞がたつた 16 しかなく例へば eat（食べる）といふ語のない言語を使はうと思ひますか」

これでプリドー先生全くあわてて了つて返答につまつて了ふ。この邊から討議は白熱化して日本の學生は大いに喜んで盛にやれやれと聲援する。

後藤君「國際會議に英語が使用されてをるのは一つの段階に過ぎない。何處の國にも屬さぬ言語が最も公平である。」

久保「吾々の場合はよいが、若しアメリカの學生が獨逸の學生とドイツで會議を開くのに、何の言語を選ぶか。恐らくドイツ學生は自國語で行ふことを希望するでせうし、アメリカ學生は英語を主張するでせう。フランス人との場合は如何ですか、そして伊太利とは？」

アメリカ側は沈默を守り始めた。そこで私は國際語の原則に就いて述べてよいかと、議長に尋ねたところ許可が出たので、傍から一つの報告文をとり出した。このレポートが仲々愉快なしろものなのである。シアトルに到着して、同志ジャックソン氏に會つた時、會議で國際語問題が論議せらるることがあるかも知れぬから、一つ英語でその報告文を作製して欲しいと依頼したところ、非常に親切に二頁程のをタイプしてくれた、その他二三の參考文献をくれた。今僕が大切そうに小わきからとり出したレポートは正にこのジャッソン氏の作つたものなのである。

中立性
容易なこと
生きてをること

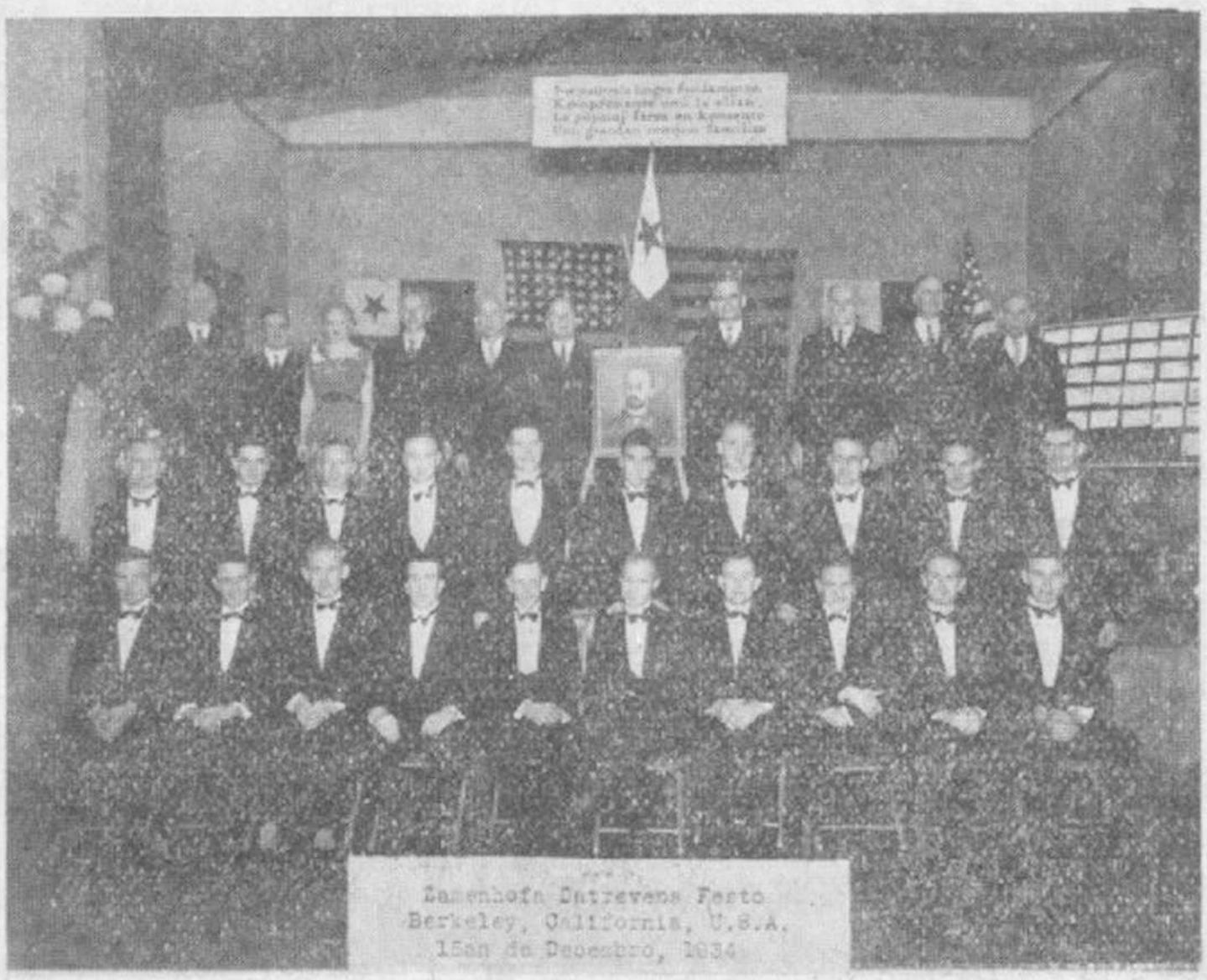
これ等の基礎原則を黒板に書いて、

「この原則をあなた方は認められるか？

と質ねたところ、肯定する。ところで今度はアメリカ側から質問の矢が放たれた。

A「その原則は認めるが、實用としてエスペラント語をやるよりかフランス語なりドイツ語なりの國語を學んだ方がよい。」

久保「英國の女學校でAクラスとBクラスでフランス語を學習する。Aクラスが一年から五年までフランス語ばかりを學び、Bクラスが一年から三年までエス語、四年五年とフ*ランス語、授業總時間數が同じ。そして五年の終りにBクラスの方がフランス語の成績がAクラスよりも優れてゐた。且Bクラスはエス語を修得した。この事實を何と見るか。外國語を學ぶためにもエスペラント語は學ぶべきである」。



バークレイ市における 1934 年 12 月ザメ祭
向つて右より 5 人目は L. Wharff 氏

プリドー議長 「エスペラント語は實際に使はれてゐないから役に立つまい。」

後藤君 「そんなことはない。日本ではチヤンと Association があつて、連絡をとり、活躍してゐる。」

久保 「日本には數千の人々が現在やつてゐるし、歐洲ではラヂオさえエス語を用ゐてゐる。アメリカは最もエスペラント運動が不活潑な國だが、シアトルで百人近くのエスペランチストに出會つた。此の町にもエスペランチストがゐる。世界を旅行するのにエスペラントをやないらなどといふ事はこれこそ馬鹿げたことだ。」

B 「しかし各國人の使ふエスペラントは國訛があつて異つてゐるため理解が難しいだらう。」

久保 「自分は日本にゐて、十數ケ國のエスペランチストに出遇つて話をした經驗を持つが、全く容易にお互が了解し合へる。そんな心配はとり越し苦勞に過ぎない。」

これでアメリカ側はスツカリ兜をぬぐ。

そして「一つしやべつてみてくれ。Show me a demonstration!」とくる。日本の學生に英語でしやべつの貰つて、それをすぐエス譯する。「黒板に書いてみてくれ」と云ひ出す。それを果たして、文法の一くさりを說明して、その日の討議が幕。

この討議のことは、最後の總會の節一般に報告され、記錄に殘ることになつた。かうして、國際語問題はアメリカ側を啓蒙することに役立つて非常な活潑な討議のうちに終りを告げた。

8 月 2 日（金） 晝食を學校の食堂で濟ませて出てくると二人の婦人と昨日の盲人の Lane 君が訪れて來てゐるのに會ふ。庭のはじの木蔭で芝生に腰を下して、話をする。S-ino Howard E. Green, S-ino H. J. Halder だ。二人とも御主人はエスペラントをやつてゐないとの話。日本では一寸考へられない。あまりエス語を實際に使ふ機會がないのだから、二人ともしやべらない。英語でしやべる。それでもエスペランチストだといふので非常に氣安く話がはづむから愉快である。Halder 夫人は北歐からの第二世だ。日本のエスペランチストがエスペラントを修得するために拂ふ努力の話をしたら、目を丸くして、自分達も定期的な會合を持たねばと云つてゐた。間もなく別れを告げる。

8 月 4 日（日） 朝眠いのを無理矢理に起されて荷物をバスに積込む。大型のバスで 30 位座席がある。これの二臺に分乘して私達は一週間滯在したポートランドの地に、アメリカ訪問の第一目的たる會議を終へ、肩の輕くなつた氣持でさよならを告げる。バスは地響きをたててハイウエイを一路南へ。南へ。

サンフランシスコを通過する。

バスに乘つて南進始めてから5日目、相變らず素晴しくよく鋪裝されたハイウエイを乘り續ける。カリフォルニア州にはいつてからは殊に美しい自然だ。「地上の加州は天上の樂園にまさる」と云はれる程の自然に惠まれた土地。

その中バスの運轉手が桑港がすぐだと告げる。やがて丘を一つ越えるとスクスクと空中に高層建築をつき立てた市街が入江を隔てて映じてくる。その豐富な色彩。資本主義文明そのものの偉力を示す姿。

バスが渡場に到着して、そのまま渡船の中に乘り入れようとする時、一人の紳士が前の學生團のバスに近づいて物を問ふた。私の友人が私を——丁度私がこの時助手臺に腰かけてゐたから、兩方から見ることが出來た——指して何か云ふ。その紳士が近寄つてくる。同志 A. Vinzent だ。握手、挨拶。一緒に船にのり込む。彼は私がアメリカ滯在期間日本からの手紙を受けとつてゐてくれた同志である。船上で久し振りに口をついて出るエスペラント。彼は 1913 年から

エスペラントを始め 1915 年 San Francisco の萬國大會の會計をやり、地方エス運動の功勞者である。小坂、進藤、井上、池田氏等日本からやつて來た同志は皆知つてゐる。流暢、正確、語彙の豐富、これが彼のエスペラントだ。ここで又日本の學生はエスペラントの効力に驚く。時間も知らせてやらなかつたのにわざわざ出迎へに出てくれた彼の親切。彼曰く「日本の領事館に電話をかけて學生團が何時に灣頭に着くかを質ねたところ、不明だとの返事。バス會社に問合せたところ大體解つたので、領事館の方へ逆に報らせた。」と。桑港には 60 人位同志がゐるが、今は定期的に集つてゐない。さうしてゐるうちに船が對岸にピタリとつくと、私達は市街を通り抜けて南進しなければならない。Vinzent 氏と一時のお別れだ。

ロスアンゼルス

8 月 8 日、9 日　桑港を通過してアシルモア、サンタバルバラ、と各々一泊して、愈々 10 日夕刻二百萬の人口を擁する大都市ロスアンゼルスの Occidental 大學の庭にバスが辷りこむ。去年日本へやつて來た顔なじみの連中 5-6 人一團となつて待つてゐたのは嬉しかつた。

8 月 11 日（日）

朝ロスアンゼルスを出發してカリフオルニア工業技術所を見學更に南進を續けるのだ。この研究所を見學中一人のアメリカ人が現れる。日本の友人達は「そら又エスペランチストだ」とばかりに僕のところへ連れてくる。D-ro Charles Witt 齒科醫で非常な溫厚な人物だ。日本から僕の送つた渡米挨拶狀の他に、進藤靜太郎氏から同氏へ宛てた小生の紹介の手紙をもつてゐる。早速親密によもやまの話。その中 D-ro Witt 及び其他のロスアンゼルス市の同志が今晩歡迎會を開くといふのだ。といふのはポートランド市から Witt 氏から「歡迎會を開きたいから何時が都合がよいか知らせて欲しい」との手紙に對して、その日ならよからうと返事を書いてをいたのだ。そんな事はスツカリ念頭からはなれてゐたのだが、來てみると私達一行の旅程が變つて、同日は羅府を離れること 60 哩もの Riverside といふ町へ泊ることになつてゐる。さあ困つて、種々苦心したが、どうにも仕方がないので、謝つて、日を變更して貰ふことにする。Witt 氏は會の中止を通知するために羅府へ引き返す。

この研究所で立派な晝食を御馳走になつてゐると、又もや別の人物が現れた。一番端に坐つて僕に「何處に Mr. Kubo がゐるか?」と訊ねる。名乘りを上げると、トタンに彼氏、ベラベラと素晴しく速口でエスペラントを喋り出す。Arther Brooks Baker 氏がこの人である。頭のはげた、一寸精悍の感じのする男である。彼はエスペラント語を 29 年間やつてゐるさうだ。彼はアメリカに最初のエスペラント雜誌 „Amerika Esp-isto“ を 1906 年 10 月創め、後之を Ges-roj Reed に讓渡した。この Amerika Esp-isto が現在まで、北米エス運動の最も權威ある機關紙である。彼はその他 „Elements of Esp.“ や學習書 „American Esp-Book“ (4 萬賣れた) を作つた。1907 年に „Komunista Manifesto“ エス譯を發表した。兎に角そんな譯でアメリカのエス運動の功勞者の一人なのである。過去に於ては講演業、或は jurnalisto として働いてゐたらしいが、現在では特に之と云つて定職がないらしい。彼氏は僕から歡迎會の變更をきくと、頗る殘念がつて、それはいかん、是が非でも今日やつた方がよい。60 哩位は何でもない。會が終つてから、自動車でとどけてやるからといふ。そこで決心をして一行から抜け出ることになつた。何しろ自由行動は禁ぜられてゐるのだから秘密裡にやらなければならない。コツソリ裏の出口から出て Baker 先生の友人のボロ自動車に乘せて貰つて、羅府に引きかへす。彼氏はアメリカの資本主義制度の缺點を旺に指摘して特に失業者の多いことを擧げてゐた。„New Masses“ を進呈したいと思ふが受けとつてくれるかと云ふ。とうとう貰ふ機會が

なかつた。

彼は過去 / 經歷が物語る如く熱心な宣傳家で、僕を „The Star“ 他二三の新聞社に連れて行き、宣傳をする。小生は英語を知らないやうな顏をしてゐる。翌日の新聞に掲げられさうだ。

歡迎會は D-ro Witt の邸宅で開かれる。夕刻 Witt 邸へ到着するとまだ誰れも來てゐないところで S-ino Witt に面會する。Witt 夫妻は大の親日家で Japan Society（日米人よりなる社交會）の副會長をつとめたこともある。

やがて續々と同志がつめかけてくる。若い女の人もゐれば、自分はユダヤ人だと名乘る春の低い畫家、エストニアに生れたといふ婦人、マニラに永くゐたといふ老人。30 人ばかり集まる。

Baker の司會で始まる。僕が十五分程日米學生會議のことや、日本のエスペラント運動のことなど話してお茶になる。ここで Ges-roj Chomette（ショメット）に會ふことの出來たのは愉快だつた。同夫妻は萬國大會で知り合つてフランス人たる夫君にベルギー人たる夫人は結婚する。二人の間に出來た子供は當然エスペラントをよく話す。日本を發つ時井上萬壽藏氏から紹介狀を貰つて來てゐるのでその話をすると、大變懷しがる。是非一夕家へ來いといふのだが。何しろプログラムが定まつてゐるので滿足するやうな返事が出來ない。それでも繰返し繰返し來いと云つてゐた。

ロスアンゼルスと云へば日本のエスペランチストは Scherer を思ひ出す。それ程彼の名は記憶されてゐる。この土地に來て聞いてみると、Scherer は目下住宅自動車をひつぱつて、アメリカ中を舌の旅行中だと。講演題目の主なるものは日本に關してゐる。Scherer が去つた後のロ市はエスペラントは往時のやうな活氣を呈してゐない樣だ。會員は 100 人位ゐるとか。

さて雜談してゐる中に時刻が段々たつ。散會の時間になつて、僕は心配になつて來たのは、一體誰がどうして僕を 60 哩さきの Mission Inn（有名な大ホテル）にもつて行つてくれるかだ。Baker 氏に質ねると心配するなと云ふ。色々事情をきいてみるとこうなのだ。ここに今晩メキシコの國境を越えてやつて來た同志がゐる。彼氏はロスアンゼルスの驛に英國から彼を訪れてくる三人の若い英國婦人を出迎へにやつて來て、序に Witt 邸の僕の歡迎會に顏を出した。

汽車の時間が來たので彼氏は驛に行つたが、若しその三人の英國婦人が來なければ、歸途又ここに寄つて、僕をのせて行つてくれる。もし彼が 10 時までに來なければ、汽車に乘つて行くより他に道がないといふ。甚だ心細くなつて來た。ところが天祐！三人の英國の婦人連が來なかつたのだ。彼氏盛に首をかしげて

Kien iris la tri junaj anglinoj?

を繰返して室の中へはいつてくる。Baker, Witt 氏夫妻に別れをつげる。自動車は暗の中に吸ひ込まれる。

60 哩の對談——探檢隊の首領

彼氏の名は P-ro Edmond Székely（セーケル）。頭を坊主に刈り込んで、目の優れた、鼻の高い、口のひきしまつた、皮膚の色は陽にやけて褐色、やや東洋人的な感じ、背は 5 尺 4 寸位。ネクタイなどしないで、折襟のシヤツを白く巾廣く出してゐる。エネルギーそのもののやうな歩きぶり。

先刻會の時に立ち話をした際には、歐洲にゐたらしく、井上萬壽藏氏と Internacia Domo で一緒だつたとか、UEA の改組問題の最近の事情はどうか、Kreuz を知つてゐるとか、優秀な知識とガツチリした話の進め方をする男だ。それに非常に正確な發音で、なめらかに自由にしやべる彼のエスペラントは、未だ曾て聞いたことのないよいエスペラントだ。

此の Székely 教授と 60 哩の夜道を自動車の中で對談することになつた。

先づ彼はハンガリー人であることが分つた。ルーマニアのある大學の心理學の教授をやつてゐたが今は世界探檢の途中。この探險隊は 1930-1940 年の期間でパミール高原を出發點として、アフリカを通過して、西印度群島、それから今メキシコと合衆國の國境までやつて來たのだ。5 年かかつてここまで押し進んで來たのだ。東洋へも來るかと誘つて見たところ、目下の計畫では行けないとの答。探檢の目的は、比較土俗學の研究であつて、例へば小島に滯在してそこの住民の言語、其他あらゆる生活樣式を研究する。それを單に質問ばかりによつてせず、精密な器械を使用して反應を檢するといつたやり方。彼はその點心理學者であるから、實驗器械の操作は巧みだ。この集積と他の住民の集積とを比較して、人類の起源の科學的根據にしようといふ。彼は日本民族はアジア大陸から移住して來た民族だと考へる。

探檢隊の一行は首領のセーケル教授を除いて他に 11 名、全部國籍を異にしてゐる。現に私の乘つてゐる自動車の運轉をやつてゐる青年は英國人である。この隊の公用語は、英、獨、佛スペイン其他であるが、エスペラントが主要な公用語になつてゐる。といふのは隊長以下 12 人の隊員が悉く國籍を異にしてゐるのであるから最初一つの言語で全部に命令を發してもそれが徹底しないので、同じことを他の言葉に譯して二重三重の手間がかかつた。古くからのエスペランチストであるこの優れた首領は、隊員に探檢の途中途中でエスペラント語の講習を始めた。そして今では全部の隊員が一樣にエスペラント語を自由にあやつる。そういへばハンドルを握つてゐる英國青年もエスペランチストだ。探檢調査の報告もエスペラントで書くといふ。何か印刷にして發表しないのかと質ねたら、彼の考へでは 1940 年探檢旅行が一應終了した後に之をまとめる積りでゐたが、すすめられて中間報告を英譯して英國のある出版所から

Cosmos, Man and Society (宇宙、人間、社會)

といふ題で約 1000 頁程の尨大なものを出すさうだ。あと二ケ月程したら發行される筈だと云ふ。

この探檢隊の費用は全部セーケル教授が個人で負擔してゐる。彼曰く「公や、又は團體、研究所等から金を貰ふと、自分達の所說をまげたり、自由な行動がとれない。だから絕對にさういふ所から補助金をうけない。しかし君、そんなに考へる程は費用がかからぬものだ。例へば食事にしても、生の物を食ふ。野營をする。これを見給へ」と云つて取り上げたのは生のヂャガイモだ。よく見ると、自動車の中に泥のついたジャガイモが轉がつてゐる。萬事こんな具合だ。ここで彼の素晴しい世界觀がくりひろげられる。

人間は富んで、長命して、且頭腦がハツキリしてゐれば之程幸福はない。現在の資本主義文明は餘りにも人間の生活を人工的にし過ぎて、短命にしてゐる。自分が今迄調査したところによつてみても、長壽を保つ人種なり住民の條件は皆共通である。(1) 新鮮な空氣。(2) 充分な日光、(3) 新鮮な食物。これである。成程さう云へば彼氏サツキから自動車の窓をあけて盛に風を入れてゐて、僕が寒いと不平を訴へても、とうとう「新鮮な空氣は必要だ」と頑張つて、硝子窓をしめさせない。服裝にしても胸をひろげたシヤツだ。僕はそてでそうした原始的な生活は折角の文明から逆行する。人間は短命でも高い文化を味つた方がよいと反駁すると、いやそんなことはない、そういふ健康な生活をしてゐて、高度の藝術、學問を味へばよい。然しどうすればさういふ人間社會生活が出來るやうになるのか聞くことが出來なかつた。

彼の記憶力のよいのには驚嘆する。哲學の話しが出て、西洋哲學者の名前をソクラテスからフッサールまで順々にあげて、彼はどうだ、此の哲學者はどうだと說明する。ヘーゲルの辨證法に就いて、極く初步的な意見の交換をしたが、彼氏豐富な表現力をもつてゐるので、スラス

ラと苦もなくエスペラントで説明するので、こちらがタヂタヂ。

60 哩の夜道を、數回尋ね尋ねして、12 時 Mission Inn につく。ホテルの前で「お寢みなさい」で、自動車はメキシコ國境指して。

ロータリー倶樂部で

メキシコの國境近へ行つてから又北上して、サンフランシスコ。8 月 20 日、市中目抜き通りの Palace Hotel でロータリー倶樂部の學生團の歡迎會がある。ホテルに近づくと、この前渡場まで迎へに出てくれた Vinzent 氏にバッタリ出會。日本から來た手紙をわざわざ屆けに來てくれたのだ。會場にはいる前に Vinzent 氏とエスペラント語でしやべつてゐると、前に列をつくつてゐた一人の老紳士が、Vinzent氏に「君は日本語で話してゐるのか」ときく。Vinzent 氏が說明すると感心してきいてゐたが、やがて順々に會場にはいる時件の紳士が僕をつかまへて彼の座席の隣りに案內してくれる。はいつてみると 500-600 人の參會者だ。彼や僕の坐つた席は一段と高いところで、司會者と同じ列。先程 Vinzent 氏が僕の耳にささやいて彼は世界的に有名な海法學者だからその積りでとのこと。彼は食事中隣りのロータリー倶樂部員と「ロータリー倶樂部の如き國際的社交團體が、エスペラント語のやうな言語を取り入れることを考慮すべきだ」と語つた。その紳士は僕はエスペラント語がどの位話せるかと訊ねたので「日本語同樣だ」と大袈裟に答へたところ、そんな立派な言葉なのかと驚く。この海法學者の名は Ira S. Lielick.

桑港の同志

私達學生團の大部分が 8 月 23 日 President クリーヴランドで日本に向つて、桑港を發つ。あとに殘つた僕は愈々自由行動がとれることになつた。8月24日 何とかいふホテルで F-ino Marshall の晩餐招待。後彼女の宅でサンフラシスコの同志の歡迎會といふプログラム。

迎へに來てくれた Vinzent 氏と一緒にホテルに行く。F-ino Marshall それから、其の他 5-6 人の婦人が見える。F-ino Marshall はバハイ敎徒で年齡 40 歲位の親切な小柄な、如何にも愛にみちみちたといふ感じのする婦人だ。日本のエスペラントになじみ深い F-ino Alexander は友人ださうだ。

晩餐が終つてから、Marshall 孃の宅へ皆で行くと十人余り來てゐる。P-ro Wharff, S-ro Fred Rivers 其他男子連と握手する。Rivers 氏は古くからの同志で、ザメンホフと文通したことがあり、Originala Verkaro にのつてゐないザメンホフのハガキを二通持つてゐるとか。その他ポーランドのワルシヤワに少年時代に住んでをり、ザメンホフを知つてゐるといふ同志にも出會つた。一席しやべつて、質問をうける。f-in Marshall が是非再會したいと云ふので約束してVinzen 氏の家へ行く。その日から二日同志 Vinzent 氏の家に厄介になつた。彼の家は灣をへだてた Berkeley 市にあつて、毎日銀行の辯護士をやつてをる彼は、渡船——といつても 3000 人位乘れる大きなもの——で桑港の市街へ通つてゐる。バークレーの終點に到着すると、Mrs. Vinzent が迎へに自動車をもつて來てゐる。Vinzent 氏が代つて運轉するのかと思ふたら依然奥さんが梶をとつて家につく。バークレーの町が又ひどく坂の多いところで、これを夜道平氣で急カーブなど切りながらドライブして行くのを見て、さすがアメリカにゐるんだと感ずる。

Mrs. Vinzent は若くて頗る親切だがエスペラント語をやらない。日本へ來るのには是非エスペラントをやるやうにと大いにすすめる。二日厄介になつて、今度は P-ro Wharff のところに行く。

バークレーの人々

Profesoro Fred L. Wharff はもとカリフオルニア大學の近代外國語の講師をしたことがあるので、彼を呼ぶのに profesoro を使ふ。68 歳になる老紳士である。彼の家には老父がおて、お世話出來ぬから、友人のホテルに泊つてくれと、バークレーで有數の大きな White Cotton といふホテルに二日分部屋をとつてくれる。こんな親切に外國の同志も心配してくれるのだ。

P-ro Wharff は世話好きで、非常に熱心な同志だ。僕を捕へる迄に隨分骨を折つたらしい。最初僕が Berkeley にやつて來て三日間忙しくて、通知をしないでをり、とうとう Berkeley の國際會館で約束して 5 分程會つた時最初に彼の叫んだ言葉 „Fine mi kaptis vin!“ 彼は町のロータリー倶樂部の會員だがロータリー倶樂部は職業から一人宛の代表を選出するので、彼はエスペラントを代表しての部員だ。さすが昔近代語の先生だけあつて、正確な立派なエスペラントを使ふ。アメリカで會つたエスペランチストで最も熱心な一人だ。彼の家にあとで訪れたことがあつたが、エスペラント室といふのがあつてその部屋にはいると壁から、机の上まで Esp-taĵoj で一杯。R.O. や「エスペラント」もすぐ目につく。「エスペラント」の表紙は斷然かがやいて見える。支那文字の新聞に逆にはつてあつたり、別府の蠻者の砂風呂の繪ハガキを之は何かの祭禮の儀式かなどと聞いたりする。

8 月 26 日 White Cotton の食堂で二人の婦人と 4 人の紳士が一緒に晩餐をとる。Wharff 氏の招待である。ここでは全く自由にエスペラント語がしやべれる。僕の隣りに坐つた S-ro J. L. Spence 君は未だエスペラントを始めて三ケ月、ウォールフ氏に教はつてゐるとか。僕は彼にどんな本で最初學んだかをきいたら、ポケツトから出したパンフレツトが何と、日本エスペラント學會で作つた外國人宣傳用の英語書きの „Esperanto“ なのにはあきれた。これは1933 年第一回日米學生會議の時配布するので學會で最初作つたものであるのでよく知つてゐる。國產品も言語の領域にまでから幅をきかしてアメリカまで手を延ばしてをるとは知らなかつた。

食事が終つて別室で 20 人程同志が集つて、一席しやべれとのこと。日米學生會議は國際法問題の討議、日本のエスペランチストの努力等を語る。Wharff 先生、日本の同志の話を聞いて、アメリカのエスペランチストは非常に努力が足りないと思ふ。しかし乍らアメリカのエスペラント運動は不活潑に見えても、一度び活氣を帶びた時にはドツと全國的に擴まるだらうと。この會場で見たところで驚いたことに、出席者の大部分が老人であるといふこと、半分が 60 歳以上と見え、最も若いスペンス君が 32 歳。その他は 40歳-50 歳。これではエスペラント運動も將來性がないとしみじみ感ずる。

サンフランシスコの講習會

9 月 5 日 F-ino マーシヤルと先約があるので電話をかけると近頃講習會をやつてゐるから會場で會はうとの答へなので、場所をきくと、僕の宿つてゐるホテルから4ブロツク位さきなことが分つた。電話をかけ終るとホテルの日本人が「馬鹿にあなたはスペイン語が上手ですね」と云はれたのに成程メキシコ文化の影響のあるところと感ずる。

講習會場は四つ角にある大きな教話の一室で行はれてゐた。初等で 11 人婦人ばかり。僕がはいつて行くと、F-ino Marshall が是非日本のエスペラント界の情況を英語で話してくれと云ふので、30 分程鼓吹的にしやべる。講習は教科書らしいものを使用してゐないで、エヂンバラの辭書をもつてゐる婦人もある。講師が可成りの文章を黒板へエス語で書き、すぐそれを英譯

して說明する。それをノートにとつてゐるだけ。それで彼等には了解が行くらしい。ここの受講者も婦人とは云ひながら皆 30 を越したやうな人ばかりで、凡そ日本では見られぬ現象だ。一緒に晝餐をとろうと誘ふのを斷つて、ホテルに歸る。

エームス先生

9月6日 船がたつ日なのが、船員がストライキをやつて、今日は出ないらしい。ストライキはアメリカでは到るところで見られるし、勞働者の組織力が强いから、日本のやうに爭議團側で慘敗などといふことはない。お蔭でもう一日餘計にアメリカにゐられると大喜びで、S-ro Brewster F. Ames の法律事務所のエレベーターにのり込む。電話をかけておいたので早速會つてくれる。忙しいはやる法律家だ。寫眞のやうに白髭を蓄へた老人だが元氣だ。大きなサイン帖を出して、これはエスペランチスト訪問者の名簿だといふ。成程淺田一博士、進藤靜太郎氏、井上萬壽藏氏、池田善政氏等の名も見える。

桑港街上の Ames 氏

ここでアメリカの言論の自由に關する法律を色々聞いたり調べて貰つたり、それから一緒に外に出て、學校法令の本を搜して貰つたりする。今晩自宅へ來れば六法全書を一册やるといふ。訪問を約して握手。

その夜10時半頃ホテルに歸つてから電話で、「今歸つたばかりで甚だ遲くなつたから、申譯ない。明朝お邪魔に上るから奥さんにでも渡しておいてくれ」とたのんだところ、未だ早い、やつて來いといふ。アメリカと日本とは2時間位夜の時間の概念が違ふのだ。歩いて行く。途中名物のホールドアップにも出遇はず無事つく。娘さんや奥さんが出て來て、ブランデーを飲まされて閉口。同氏は曾て日本にも來たことあり、マニラの大學に數年間法律を教へてゐたことがある。エスペラント運動には數年前までは非常に熱心で、桑港のエス界の指導者だつたのが最近第一線から退いてゐる。12 時頃門口で „Bonan nokton!“ を言つたのが、アメリカ領土での最後のエスペラントだつた。

☆　　☆

☆　　☆

北米合衆國エス運動の斷面

アメリカから太平洋沿岸の旅行中僕の出遇つたエスペランチストの數

1)	シアトル	シアトル、エス會	ĉ. 20
		ジャツクソン氏の會	ĉ. 60
2)	ポートランド		ĉ. 3
3)	ロス、アンゼルス	ĉe D-ro Witt	ĉ. 30
4)	サンフランシスコ	ĉe F-ino Marshall	ĉ. 20
		講習會にて	12
5)	バークレー	Hotel White Cotton	ĉ. 20
		計	ĉ. 165

アメリカはエスペラント運動が最も盛でない國として、餘りに我々の頭にしみ込んでゐる。だから行つて見るまではそれ程期待してゐなかつた。しかし日本のエスペランチストがアメリカに行つてエスペラント語だけで旅行しようと思へば出來ないこともない。それは上の私の經

驗でさうである。且私の旅行範圍は西部に限られてゐた。東部へ行けば New York, Chicago, Philadelphia といつた大都會である。もつと活潑にやつてゐることは UEA の年鑑などによつても想像が出來る。

アメリカのエス運動の歴史に就いては別の機會に讓るとして、現狀は、Esp-Asocio de Norda Ameriko (EANA) がワシントンにあつて、中央機關。機關紙が „Amerika Esp-isto“ かつては此の Organo は非常に美麗な體裁で、立派な印刷であつたが、昨年アメリカで見た時は謄寫版の貧弱なものになつて了つてゐた。UEA の年鑑によつてみても 1931 年には Delegito のをる町が 100 もあつたが、34 年には 79 に減じてゐる。

アメリカは人口 1 億 2 千萬。カナダを加へて英語の話される大陸だ。廣大な土地に „only English“（英語だけ）が使はれるのだ。（尤も移民の多い國故英語が充分出來ない住民も數百萬ゐるとか、しかし彼等の子供達は皆學校教育で英語を憶える。）從つて歐洲人の如く國際語の必要を實際に感じない。且エスペランチストにしてみても、歐洲のやうに、外國同志がやつて來てお互に刺戟し合ふといふこともない。この點に就いては日本の立場と同じである。しかもアメリカは資本主義國として最も隆盛を誇つた國であり、衰退の徴は見えても、まだ世界の金融資本の實權を握つて、君臨してゐる。從つて英語が世界語として一應表面上には何處でも通用する可能性がある。この點歐米文化の吸收に急しい日本とは事情が異つてくる。

何もこれはエスペラントに限つたことではなく、米國人は malriĉa lingvisto (poor linguisto) である。學校の近代的外國語の教師がその點皆こぼしてゐる。アメリカの大學圖書館の書庫にはいつて驚くことは外國語の學術書の少ないことである。例へば哲學など當然一應ドイツ哲學のものが可成りあつてよい筈だが、ない。係りの人にきくと學生があつても讀まないと云ふ。high school や大學で必らず獨、佛、スペイン語を學習するのだが、卒業すると彼等は皆忘れて了ふ。「君はドイツ語を話すか?」とこちらから質ねると „Oh yes,“ などと景氣がよいからドイツ語で少し話すとすぐつまつて了ふ。これは一緒に行つた日本の學生の大部分が經驗してゐたところである。僕の出會つたある紳士で父はドイツ人でこちらで生れたが、子供の時は家庭でドイツ語を話したが、父が死んだ後はドイツ語を話さず、今では殆んど何も知らないと。日本の第二世が、日本語がよくしやべれぬのも同じ事情である。いわんや讀んだり書いたりすることは尚更のこと。一緒に行つた杉森孝次郎教授の講演會などで第二世の連中は中途で會場から出てくる。そして呟く。「どうも日本語が分らないから」と。結局アメリカ人が外國語に關心を持たないのはその必要がないからである。

さてそれでは、どういふ人々がエスペラントをやつてゐるか。先づエス界の指導者の多くが皆ヨーロツパで Esp-isto になつて、それから新大陸へやつて來た人である。そして此等の周圍に集つて續けてゐる人々が皆年寄か壯年で、青年期の人々は仲々見あたらぬ。バークレーの例などはその極端なものだ。彼等は昔憶えたエスペラントを放さずに、趣味として之を樂んでゐるのだ。從つて、本を大いに讀んだり、宣傳をしたり、エスペラント語で何か發表するなどといふことはどうでもよいことなのだ。從つてエスペラントは社交の一つの道具に近い。（勿論非常に熱心な少數の人々は別として。）だから日本の同志が意識してをるやうな、進歩的な文化財として人類の文化發展のために貢獻するといつた熱意が感ぜられない。彼等はエスペラントの本を讀まないといふ例として AELA のEnciklopedio de Esp. をシアトルでタツタ一回見たきりである。他では尋ねても持つてゐない。かういふ狀態であるから、エスペラント會に出ても、エスペラント語の碌にしやべれぬ人々が多いのも當然である。

かうした狀況は隣國の同志私達にとつて甚だ遺憾なことである。若い優秀な人々がやり始めなければ駄目だ。その點に就いてはアメリカの勞働者のエス運動が活潑になることも期待の一つだ。國際的交通機關の發達と共にアメリカ人も國際的生活を多く經驗するであらうし、そうなることによつて、エスペラントの必要性も痛感されるだらう。日本の同志が對岸のアメリカの同志を刺戟することも必要である。そして年々日本に澤山のアメリカ人が觀光に訪れてくるのであるから、彼等に對して積極的にアメリカの同志が働きかけることも望しいことである。

社會は常に前進する。エスペラントもこの社會の前進の中から生まれ出たのである。アンドレ・ジイドは云ふ。「今日、文化、文明が發展し、開花することが出來るのは、この過去の文化を長びかすことに依つてではなく、この過去の文化と闘ふことに依つてだと思ひます。」一國の言語が多くの國々を支配するといふのは既に過去の文化である。私達は一日も早くかうした古い文化から脫するために、そして新しい文化の開花のために、勞力を惜んではならない。

—— 8, Majo, 1936 ——

S-ro K. Ikegawa al Eŭropo

Sinjoro Kiyoshi Ikegawa, unu el fervoraj samideanoj en Osaka, forveturis al Eŭropo la 2-an de majo por partoprni la 3-an Kongreson Internacian de Sociboniga Laboro, kiu okazos de la 12-a ĝis 18-a de julio en Londono.

Li estas juna oficisto de l' urba magistrato de Osaka kaj li estis sendita de l' urbestraro al la kongreso kaj ankaŭ komisiita esplori kaj enketi socibonigaj entreprenoj en Eŭropo de l' guberniestro de Osaka.

Antaŭ kelkaj jaroj li studis Esperanton fervore, kiam li estis studento de Literatura Fakultato de Ŭaseda Universitato, Tokio. Kaj li estis ĉefa gvidanto de Tokia Esperantista Ligo de Studentoj.

Post la kongreso supre menciita en Londono li estos en Berlino por vidi Olimpiajn Ludojn kaj poste en Varsovio, Dresdeno, Prago, Vieno, Budapesto, Venecio, Florenco, Romo, Napolo, Brindiso kaj aliaj urboj. Se eble, li vizitos Svedujon, Litovujon kaj Rusujon.

Ni petas al eŭropaj samideanoj ke ili helpu al li en la vojaĝo.

(32 頁よりつづく)

Labirinto. fremdlingvoj, Reveninte Fabrikejon, Nekontinueco 等すべて相當の作品をエス譯せるもの。

★ **Verda Letero**(コレスポンド會)13 號。8頁。

★ **Verda Letero** 14 號。8 頁。——幸運の手紙。

★ **Verda Letero** 15 號。8 頁。——エス語の意義と國際通信。

★ **La Suno** (3 號)(日本國際協會和歌山支部) 四六倍 8 頁。——Ĝenerala stato de la mondo, Celoj de Japanujo.

★ **Vinberbranĉo** (キリストエス聯盟)。2 號。17 頁。——Laboro de fido, penado de amo kaj pacienco de espero.

★ **La Urso** (札幌) 1-2 月號。12 頁。——Unu Espero al la parolfilmo.

★ **Kupolo** (横商卒業生エス會) 3 月號。6 頁。Plumo knaras kaprice (石黒)。

★ **El Sudo** (高知)。5 號。15 頁。——植物學とエス。

★ **Semanto** (宮崎) 1-2 月號。20 頁。——Z. の匿名に關して (岩下)。Pri la aŭtografo de D-ro Z. (高橋)。

★ **Informilo UEG** (宇土)。1 號。半紙 2 枚。

★ **Bulteno de KEA** (神戸)。2 號。25 頁。Ironia renkonto (柳)。

★ **Verda Triumfo** (帶廣) 創刊號。20 頁。——Anstataŭ saluto (塚田)。次の世紀へ (佐藤)。支部設立につき (菅沼)。De Nokto en nokton (原田)。Rakonto apud fajrujo (沼田)。Amatino (長谷川)。La Rememoro (黒澤)。El mia fenestro (紺野)。Esp. kaj fritaĵo (佐藤)。

特使に托された九州各地方會の希望とそれに對するお答へ

（完）　　學會事務部

5. 宣傳

a. 宣傳用の內容豐富なパンフレツト（永田氏の如きもの）の發行。（小倉）。

發行したいと思つてゐます。近々代議士候補者の返事等もパンフレツトの形で發行します。

b. 中等學校教員に對して質問書を出すこと。仕事は地方會に依頼すればよろしい。（小倉）。

結構と存じます。この方面エス運動後援會等でも大いにやつてくれると思ひます。

c. 中等學校(先づ青年學校)へ英語が入る樣文部當局及び一般に運動すること(小倉、人吉)。

あらゆる機會にこういつた雰圍氣をおこさせる樣努力してゐます。今後も勿論つづけます。唯遺憾なのはやはりこうした輿論をうまくつくりあげぬと文部當局にいくら運動しても効を奏さないことです。文部省關係の人に尋ねた所文部省では學制の改革は役人の手でどうにもならぬものでむしろ輿論が强大になつて始めて成功するのだとの話でした。女學校の英語廢止は輿論がそうむいてきたからでもありもともと規則上女學校の英語科は中學校とはちがひ必修科でなく隨意科となつてゐるので何時でも廢止できるのである。之に反して中學のは時間をへらしても廢止は容易にはできぬそうである。我々はだから當局を動す一方新聞や雜誌を利用して輿論を喚起するにつとめねばならぬと思ふ。

ĉ　頑迷な徒を啓蒙すること。（佐賀）。

d. 萬國エス大會を日本で開く意思ありや。（大牟田）。

これは大問題ですこれについては本誌次號頁の宮崎氏へのお答へをおよみ下さい。

e. 極東エス大會は如何。（大牟田）。

萬國大會は UEA の規約によつて制肘されますが極東大會とか全アジア大會とか汎太平洋大會とかは規則はありませんから何時でもできます。昭和 15 年位には萬國大會は無理にしても極東大會位はひらきたいものです。

f. ラヂオで講座放送のこと。（福岡、大牟田）

努力してゐますが仲々うまくゆきません。しかし今後も努力はつづけます。

g. 「中等學校英語科問題とエス語」のパンフレツトは非常によい。（大牟田、熊本）

ĝ. 大會の際文部省へ電報をうつ事。（人吉）。

h. 展覽會の材料を貸してくれること。（人吉）。

之れ迄もおかしてゐます。あちこちへおくると散佚しやすいし資料もいたむのでこまります。運動後援會の方でも資料を整備してくれることになつてゐます。

ĥ. パンフレツトを無料で送つてくれること（鹿兒島）。

無料とすると無制限に請求されるので印刷實費と送料だけいたゞいてゐます。尤も宣傳用のものはこれ迄でも數があまり多くない場合は無料（送料のみ申うけ）でお送りしてゐます。

i. 雜誌や新聞を利用する事。（宮崎）。

大いに利用してゐます。昨年からエス界の大きなニュースはこの頃學會で全國二百餘の新聞社へおくつてゐます。

j. もつと名士をまつりあげること（廣島）。

6. 組　織

a. 組織運動强化のため財團法人の外に社團法人設立のこと。（長崎、大牟田、熊本、行橋、鹿兒島）。

b. R. O. をそのままにして會員の增加をはかつては（廣島）。

7. 地 方 會

a. 地方會を通ぜずして學會々員になつたものを地方會へ通知のこと。（小倉）。

事務所手不足のためできません。併し年に一回位當該地方全會員の住所氏名を御通知することはできませう。御請求下さい。

b. 支部の設立に積極的に努力すること。（福岡）。

c. 地方會の會員は經濟的に困窮してゐる故とれる所からとつてくること。（長崎）。

ĉ. 特使派遣費がなければ文書によつて諮問すること。

最近月に一二回地方會へ通知や諮問をしてをります。

d. 地方會の機關誌を批評せよ。（熊本）

8. 學會の全般について

a. 學會は寬大でなければならない（大牟田）。

b. 特使を出すこと。（全部の會の要求）。

c. もう少し商賣氣を出すこと（熊本）。

ĉ. 根本的方針を確立する事。重要でない不平を一々とりあげる必要なし。（宮崎）。

d. 何故エスペラントをやるかを示せ。（宮崎）。

e. 會員章を賣ること（行橋）。

f. 地方では思想關係を心配してゐる。思想關係者に利用されぬ樣。（廣島）。

本誌次號特輯號について

並に本號發送遲延及減頁のおことわり

編　輯　部

本誌本號は通算第 200 號に相當するのでその紀念として特輯號とし頁數を普通號の二倍とし「日本エス運動小史並に運動史資料(大正八年末迄)」を滿載しにものを編輯する事を企て去る3月末から鋭意各方面に原稿をお願ひして準備中であつたが之に用ひるポイント活字が印刷所に於て十分でないため新に幾か買入ることになりそれにも相當の日次を要することになり又原稿をお願ひした向の人々も御多忙の方が多く古い材料について調査してお書きになるには相當の日時を要するため豫想外の時日を經過し且二三原稿中のくひちがひその他につき各方面へ紹介することにしたため始め豫定してゐた五月十日發行（この事については前號でおしらせしましたが）不可能となつたのでいろいろ考へたがあまりおそくなつては會員各位に對しても申譯ないことと考へ5月3日頃になつてから急に豫定を變更することにしてさしあたり5月號を出し特輯號を6月號にのばすことにしました。急の編輯のためと次號の特輯號が豫定以上の頁が超過したのでそのための豫算がないのでその一部補塡のため本號は 8 頁減頁することになつた。始めから6月號を特輯のつもりだと本號は遲延せずに出せたのですが上述の如くなるべく第200號たる本號を特輯にしたいと思つて努力したものですからこんな結果になりました。そんなわけで本號の發行が結局前號豫告の 10 日頃がおくれて 13 日發送といふことになりました。猶速急の編輯のため內容も不統一なものになりまことは申譯ありません。ここにおことわり申上ます。猶頁の減少は次號で十二分に補へることですがこれ又御寬容願上ます。

内外エス運動展望

UEA ロンドンへ移轉

最近 direktoro R. Kreuz 氏を失つてその後任の問題等について種々協議中だつた UEA では Komitato の決定により今度 oficiala sidejo をロンドンに移すことになり Kreux 氏の後任として C. C. Goldsmith 氏が就任することになつた。

委員會は 21 票で内 4 票が UEA ジエネーバにのこることをのぞみ 17 票はジエネバを去ることを承諾その中 11 票がロンドン說 6 票がウイーン說，そしてとうとうロンドン移轉にきまつたとの事。なぜジエネーバを去つたかは財政上どうしても物價の高いジエネーバより低いロンドンへうつすが經濟的危機にあつた UEA のとるべき策であつたと思ふ。

ヘロルド誌和蘭へ移轉

長年ラインランド Köln 市で Heroldo de Esperanto を發行してゐた Teo Jung 氏も昨今ナチスのため何かと不自由なドイツから逃避することになつて5月1日から和蘭の方へ移ることになつた。住所は Rotterdam W., Voorhavn 43, Nederlando である。

Heroldo 誌は移轉のため遲滯することなくつづけられる筈。和蘭は今日エス運動もさかんであるからキツト都合よくはこぶだらうと思はれる。

レニングラードのラヂオ

レニングラード放送局では毎週三日をエス語のために使用せしめる。卽ち日曜の 22 時 50 分から 23 時 20分迄火曜の同時刻木曜の22時 20 分から 23 時 20 分迄(以上中部ヨーロツパ時)。波長 1224.5 米。

エス書いろいろ

印度の同志 Lakshmiswar Sinha 氏は最近スエーデンにゐて自分のみたスエーデン觀を “Hindo rigardas Svedlandon” いふ名で著した。

トルコの話を書いたものが出た。著者は Stjepan Misak. 書名は Tra mistera Oriento (aŭ Miaj memorajoj) といふもの 8×10 cm の小冊子。三冊で 120 頁位である。毎月 1 冊づつ刊行されるそうである。1 冊の代が respond-kuponoj 二枚である。著者 (宛名: (Giritli Mahallesi n-ro 110, Adana, Turkujo) 自費出版。エス文はあまりよくないとの事であるが内容はトルコの話だから面白いらしい。

Scherer の再度歐洲旅行

先年世界一週エス講演旅行をしてゐた Joseph R. Scherer 氏は 8 月のウイーン大會をふりだしに再度ヨーロツパの講演旅行をすることになつた。

9 月中旬迄スイスに9月中下旬は丁抹ノルウエーに 10 月はスエーデンに 11 月オランダ、ベルギー、フランス、12 月も北部フランス來年1月スペイン、ポルトガル2月は南フランス3月はチエツク4月はドイツ、英國又はポーランドといつた具合にプログラーモを立てて講演旅行をつづけることになつた。今度もキツト成功するであろう。これが又エス運動のためにも大きな刺戟になるだろう。

ロドンン・エス聯合

英語國の首都ロンドンにもエスペランチストが大勢ゐてエス會がいくつもある。3月 14 日これらのエス會の人々が聯合して一つの federacio をつくることになつた。その名は Londona Espeponto-Federacio. 中立的の會も勞働者の會も聯合してゐる。そして各會や孤立した個人の同志やを一丸にしたものである。年に4回會合して意見の交換と社交をかねることにした。C. C. Goldsmith が會頭で W. G. Keable と R. A. Davy 孃が副會頭、E. Warren 夫人が書記になつた。そして又宣傳のために別の komitato が組織され E. W. Durrant が書記になつた。

ロンドンのエス運動の今後に大きな期待がもたれる。

英語學生を啓蒙する

4 月 17 日 16–18 時、神田 YMCA で今夏の第三回日米學生會議を東京で開きアメリカから 50 名の學生を招待しようと、着々その準備に忙しい日本英語學生協會の自由討議會（用語、英語）の第一回が開催された。試題として、後藤潔氏の提案により、國際語問題がとりあげられる。後藤氏議長席から國際

語の重要性と、英語が現在國際會議に用ゐられてゐるのも一つの段階に過ぎぬことを說く次に久保貞次郎氏要求に應じて、エス語に就き一通り說明後、出席30餘名の男女學生から一人一人質問乃至反對論をきく。「エスペラントは人工語である故に、文學は書けぬだらう。」「文化の發達に應じて新語がドンドン作られて將來にはその過剩に惱むだらう。」とか無理解な攻擊も出る。それを一々反駁說明して大いに啓蒙された由。

三崎英語學校のエス語科

東京神田三崎町の三崎英語學校ではエスペラント學級を設けた。第一期は四月十五日開講。七月末まで續く。授業は每週水曜日午後八時半から九時半までで、講師は磯部幸子孃。第一期參加者は三十名あつた。

日本科學エス協會の成立

昨年名古屋の大會の科學分科會において問題となつた自然科學及技術方面の團體結成の議は其後同分科會出席者及有志の間で案が練られてゐたが、熱心な贊成者が意外に多く、急に具體化して日本科學エスペラント協會 Japana Sciencista Esperantista Asocio (JESA) が成立し、最近機關誌第一號が出た。同協會の役員としては井上仁吉、松隈健彥、望月周三郎、大石和三郎、小坂狷二、淺田一、前田勤、八木日出雄等の名士が顏を並べ、其他科學技術方面の若手連が委員となつて居り、その活躍が期待されて居る。會費は普通會員一圓、贊助會員二圓。機關誌は年四回發行。機關誌第一號の內容は次の通りである。

大石和三郎 (Pri miaj raportoj kaj kritikoj el eksterlandoj) 川崎直一（術語の採集）岡本好次（術語と普通語）前田勤（私の方針）桑原利秀、川崎直一（大石さんに術語に就き尋ねる）JESA に對する諸家の意見……

機關誌見本請求は2錢切手 10 枚を添へ同協會編輯部(大阪東淀川區十三西ノ町2の88)へ、入會は會計部(名古屋市東區新出來町 2--7) 振替名古屋 23554 へ申込の事。

新協劇團演劇研究所課外エス講座

新協劇團演劇研究所課外講座として3ケ月に亘りエスペラントの講義をひらくことになつて 4 月 19 日から開始。新協劇團、新築地劇團その他の監督、俳優、演劇研究家二十數名參加熱心に勉强中である。

東京府立第六高女

既報東京府立第六高女のエス語科はエス語志望者中入學したものは三十餘名であつたが校長丸山丈作氏の御努力によつてその後エス語科希望者が增加して 48 名となつた。同校一年生は 240 名にて之を 5 クラスにわかつたもので一クラスは 48 名である。一年生はアイウエオの五クラスであるがエス語クラスはオ組(級主任敎諭——杉山文雄氏)である。授業は週三時間、月水金であると。

全日本佛靑聯盟とエス語

先年の汎太平洋佛靑大會の主催者たる全日本佛敎靑年會聯盟の第 6 回總會が 4 月 25 日-26 日大阪中之島公會堂で催された。各地代表約 900 名出席。上提議案は 58 件。中西義雄氏の屬する佛敎濟世軍聯合靑年部は「佛靑聯盟にエス委員を設け佛靑の事業としてエス敎育を實施する件」を提出。後議案は第三部會に廻された。部會長は川上賢叟氏であり部會長の許可で 15 分間エス語について說明をなし、贊成を求めました。今回は東京の吉田弘氏その他意外の方面から贊成論が出ました。しかし一二の人から反對論も出ましたが結局大多數で可決。決議案として全日本佛靑聯盟の繼續委員に廻付し速に實行せしむる事になつた。

エス語坊や

東京の高橋肇氏の坊ちやん寬さんは生れおちて言葉をしやべりだすと同時にお父さんにエス語ばかりで敎育され東京エス界では誰しらぬものもないほど有名な存在であつたが先般東京大阪朝日英文東日によつて全國的に紹介されたことは愉快なことだ。この高橋氏の坊ちやんにエス語を敎へた體驗談その他は近々本誌上でくわしく紹介される筈であるから大いに期待されたい。

磯部孃渡米

國際子女親善協會でエス語部を受持たれてゐる磯部幸子孃（旭電化專務取締役磯部愉一郎氏令孃）は今度同會主催の淑女親善團の副團長として6月中旬渡米され米國各都市を歷訪されるが7月初旬にデトロイト市に開かれる全米エス大會に出席日本全エスペランチストを代表して挨拶される筈。

國際觀光博覽會

4月10–24日東京高島屋で國際觀光博覽會がひらかれたがその際エスペラント書の案内記その他が陳列された。

全日本エスペランチスチーノの大同團結

2月10日多田孃歡迎會席上で全日本 esp-istinoj の大同團結の申合せが出來卽夜其準備委員會が結成され其後數回委員會を開いて全日本 esp-istinoj に檄した結果多數の賛同を得いよいよ近く出來上ることになつた。未だ會名が決定してゐない。事務所は東京市王子區下十條町 1159 萬澤まき子氏方。Esp-istinoj の參加大歡迎の由。上記宛申込の事。

學會支部熊本及び帶廣に創立

熊本及び帶廣に日本エス學會支部が設立されました。

熊本支部（代表神尾碧堂）
帶廣支部（代表塚田勝）

前者は3月27日承認、後者は4月8日承認されました。

日本エスペラント學會

エス運動三十周年記念

エスペラント雄辯大會

日時　6月13日午後2時から5時
場所　鐵道省構內丸之內鐵道クラブ
（東京驛下車八重洲口より北へ折れて半丁）

來聽歡迎　會費不要

にぎにぎしく御光來下さい。東都よりぬきの我等の oratoroj の熱辯をおきき下さい。

エス運動三十周年記念

エスペランチスト懇親晩餐會

日時　6月13日午後6時から
場所　未定（詳報6月號）

全國各地報道

投稿注意：
1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡單に。
2. 締切大體前月18日（18以後到著のものものせることあり）。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ說明記入の事。寫眞は返送せず資料として保存す。

東京

★エス運動座談會——學會評議員及東京の各エス會やクンシードイの幹事の人々を中心とした熱心な esp-ito を中心にエス運動について意見交換の會合を每月第一土曜午後2時—5時學會にて會合することになり第一回會合は4月4日に行はれた。第二回會合は5月2日に行はれた。TEK 改組問題その他につき意見交換をなした、6月5日の第三回會合に於てはもつと具體的に研究することになつた。

★淺草クンシード——4月17日上京中の會津若松市の五十嵐正巳氏來會。多羅尾、松本、上田等の諸氏も出席同氏を中心に歡談。出席12名。淺草近在の同志特に初學者の來會を歡迎す。

★クララ會——3月11日より每週月木17–18時女子初等講習を下谷區下車坂禁酒ホテルにて開講。栗山五百枝孃指導。

★Elektro-Esp.-Grupo——◇3月末 Elektrujo 第5號發行。目下會規制定中。先年より調査中の電氣關係 esp-isto 名簿も大木高木兩氏の努力によつて完成。◇4月10日例會。出席3名。

★一高エス會　本年1月中旬先輩を招いて講演會を開催してから、機運漸く熟して、3月本會の成立を見たり、指導敎官は本校敎授北岡馨氏。新學期に入つてからは、俄然活潑な運動を開始し、先づ4月22日(水)19時、小坂先輩を迎へて、紹介コンパを催す、出席者18名なれども熱心なり。4月27日より二日間樂友會練習室に於いてエスペーロ・タギーヂョの齊唱練習、續いて4月30日より初等講習會開始、晝休み、第二語學敎室に於て、約40分間。今の所出席者16名許り、更に晝休みに出席不可能の者のために5月4日より（午後7時、於第二應接室）夜の部講習會を開く。向陵時報誌上にも旣にエスペラトを紹介す。講習會に出席せざれども捷徑及び辭書を購ふもの他に10名位に上つた。

★マルシャーダ・クンシード——試驗の爲2

月一杯休み。3月23日より毎火金に講習會をもつ。◇4月12日大學新入數氏入會歡迎會。◇4月29日浦和市外櫻草の田島原へピクニーコ。

★東京藥學エスペンラチスト懇談會——5月3日17時半より銀座明治製菓に集合。出席12名。藥學關係諸學校エス會再興の件。Intern. Medicina Revuo の事。藥品名彙の第五版局方による訂正の話。Farmacia Krestomatio 用材料を一般より應募されたき事。等々。次回幹事伊藤(己)、上田(嘉)の兩氏。

横濱 **★横濱エス協會**——◇Verda Jupitero (木曜例會)。メツセンヂヤーボーイ事務所階上にて。◇3月19日、自由會話出席8名。◇26日、東京より中垣、高木、比嘉氏等來訪ありエス文學を中心に語り合ふ。出席22名。◇4月2日、自由會話、出席6名。◇9日、吉田太市氏送別會、記念品をおくる。出席21名(寫眞參照)。◇YMCA Esp-Grupo 週例會は毎火曜20–21時、目下和文エス譯研究、出席平均6名。その他に毎週火曜金曜19–20時佐久間氏の指導により中等研究。用書 Fabelo。出席5名。YMCA 部內グループ對抗室內野球は 15–6 の兩夜に開催されるが我エスグループも必勝を期し參加を申込。◇Rondo Amikino——例會毎木曜19時、メツセンヂヤーボーイ事務所階上にて。用書"Historio de la lingvo Esperanto."

横濱エス協會吉田氏送別會
前列左より3人目吉田氏

札幌 **★札幌エス會**——◇3月27日大會相談會。9名。大會プログラム決定。◇4月1日浪越氏上京されるので北海道及札幌を代表して學會に挨拶方を依頼。◇6日、相澤氏は前田、花田、東氏を訪問大會につき協議。◇8日、大會相談會。會務の分擔決定。◇10日、各地方會に大會についての手紙を出す。◇14日、千秋庵にてザ忌。17名參集。大會接近につき各員激勵。◇15日、相澤、グランドホテル商工會議所、精養軒、流芳樓、ツーリストビユーロー、道廳市役所、大學鐵道等を訪問し、日本大會につき協議及依頼をなす。◇16日、相澤、仁岸、村山、太丸、阿部の5氏高瀨氏を訪問大會々頭を依頼す。◇18日、苫小牧岡垣氏來社。夜藤本氏宅にて集合參加者9名。◇19日朝、相澤、村山、森、藤本、岡垣の5名。高瀨氏訪問大會々頭の件の承諾を得後相澤宅にて協議午食後散會。

小樽 **★小樽エス協會**——例會◇3月4日出席者4名、用書フランス篇。◇18日、出席者6名。◇4月1日、6名、日本大會に就き協議。

★小樽エス會話會——◇3月11日、9名。◇25日、7名。

★小樽佛教エス會——協會と共催にて講習會◇3月2日より一週間、講師高橋要一氏、Teksto は短期講習書、參加者9名。例會◇3月14日、用書エゾーボ。◇21日エス語の詩について。◇28日、10名、佛教文學のエス譯について。◇7日、出席者8名。

寫眞裏に必ずその寫眞についての說明(うつてゐる人の名等も加へ)を入れること。別紙にかいた寫眞說明は揭載しません。一般會合記事を寫眞裏にかくことおことわり。寫眞裏は寫眞に關する說明のみとす。

帶廣 **★學會帶廣支部**——◇4月6日永らく當地運動に助力された旭川エス會長木津氏夫人が歸旭された。◇9日、塚田支部長は帶廣市西三條8丁目へ新築された病院

帶廣エスペラント會初等講習
左から、林、菅原、永峰、紺野、黑澤、堀中、井上(一)、長谷川、佐藤、菅沼、井關、尾澤、長田、西國、小野、枝廣、片倉、井上(明)、野田、葛西の諸氏諸孃。

へ移られ特に綠の室、圖書室、研究室、講習室を帶廣支部の爲開放せられ音樂部新設と共にオルガンを備へ付ける事になつた。4 月 7 日より開講の初講は 18 名參加。講師佐藤松男氏。◇副支部長菅沼寛氏は來る 6 月札幌の esp-ino と華燭の典をあげられる。黑澤、紺野、堀中三孃共作で原作小說に力を入れてゐる。◇4 月 11日、學會支部承認書到著し本道最初の支部設置の事とて大いに期待をかけられてゐる。

富山 **★富山エス會**——◇3 月 26 日より 4 月 7 日迄の中三回に亘つて北陸日々紙上に少年少女に對するエス語宣傳記事を揭載。質問をよこしたもの數名。先般の代議士候補者に對する質問狀にならひ約 50 名の名士に質問狀を發送。ボツボツ回答に接してゐる。Marda kunsido は目下スラブ篇輪讀中。

金澤 **★金澤エス會**——◇2 月 20日、出席 6 名。今にして思へば坪田君の最後の出席であつた。◇3 月 5 日、5 名。海神丸輪讀。◇3 月 12 日、7 名。吉川氏久々出席。本日坪田氏重態入院が傳へられ一同一大衝動をうけた。輪讀散會後魚半にて茶話會。◇19 日、5 名。◇26 日、8 名。◇4 月 2 日、3 名。今後の打開策につき協議を重ねた。◇9 日。3 名。故坪田君後任として伊藤春夫氏が Norda Stelo 編輯を引受ける事になつた。◇3 月 20日前日の會合に於て坪田氏病名腦炎と聞いて深い憂慮の內に散會した同志は本日早朝その卒然たる逝去の知らせに接して茫然なす所をしらぬ有樣であつた。早速各所へ通知發送。◇3 月 22日午後 1 時より坪田氏告別式葬送式金澤エス會を代表した菅野、哲學協會の相坂氏及清水氏の聲涙共に下る弔辭朗讀の後エス會代表瀨川敎授、友人代表松田氏の燒香ありて後金澤エス會、學會支部北陸聯盟等により送られた花環花籠に飾られ綠星旗に覆はれた柩はしめやかに家を出て永遠の旅路についた。エス關係者 60 餘名參加しめやかな中に盛會であつた。

今回本會委員坪田一男氏の葬儀に當りまして各地エス會並に同志盟友の諸氏より御懇篤なる弔辭弔電を賜り深く感謝します。略儀乍ら誌上を通じて御禮申上ます。

金澤エスペラント會
學 會 金 澤 支 部

名古屋 **★名古屋エス聯盟**——◇3 月 2 日 19時半より白木氏宅にて開く。具體的決定せざりしも來年度名古屋に開催の汎太平洋博へエス方面よりの出品運動すべく懇談。出席矢崎、淺野、林、池田、黑田の諸氏。◇3 月 23 日、白木氏宅 19 時半より大阪より商用の途次立寄られた進藤氏を中心に話し10時散會。出席 8 名。◇3 月 31 日、先年迄名古屋における闘將であり現在では金澤に於ける同志由比氏の來名を機に明治製菓に於て19時より一夕の歡迎會をひらいた。10 數名出席、22時半散會。◇4 月13 日白木氏宅に於て 19 時半より ekskurso の相談。

★名古屋エス會——中區鐵砲町二丁目白木氏方で每週火曜 19 日時から輪讀會を行つてゐる。出席者は每回 3-5 名。◇3 月 31 日 19 時から中區榮町明治製菓 2 階特別室で金澤から來名の由比忠之進氏歡迎會。竹中氏司會。北陸地方の運動の現在及將來に就てお話をきき後歡談 22 時半散會、出席 11 名。

★名古屋ルーマ・クンシード——◇每週火金曜例會、火曜每時平均 6 名出席。S-ro Major の出席をえて會話本位に開く。金曜日の初中等講習は最近出席良好で平均 12-3 名を數へ、用書 Heroeca Junulo 輪讀。上村氏黑田氏指導の下に初等講習續講。◇來る 5 月中旬名古屋新聞の後援を得て名販社會議室にて特別講習會を開催に決定。期日は 12 日の豫定。講師は尾崎、上村二氏。◇名古屋中央電話局長天野榮十郎氏を此度顧問としてむかへた。上村貴照氏新しく入會。◇春の遠足は來る26日關西線鍋屋堤、木曾、長良、揖斐の三大川の周遊をする。

一宮 **★一宮綠星會グループ**——4 月 8 日から初等講習開始。講師名古屋の竹中治助氏。會場は公園通 1 の 6 綠星社印刷階上。

一宮綠星エスグループ初等講習

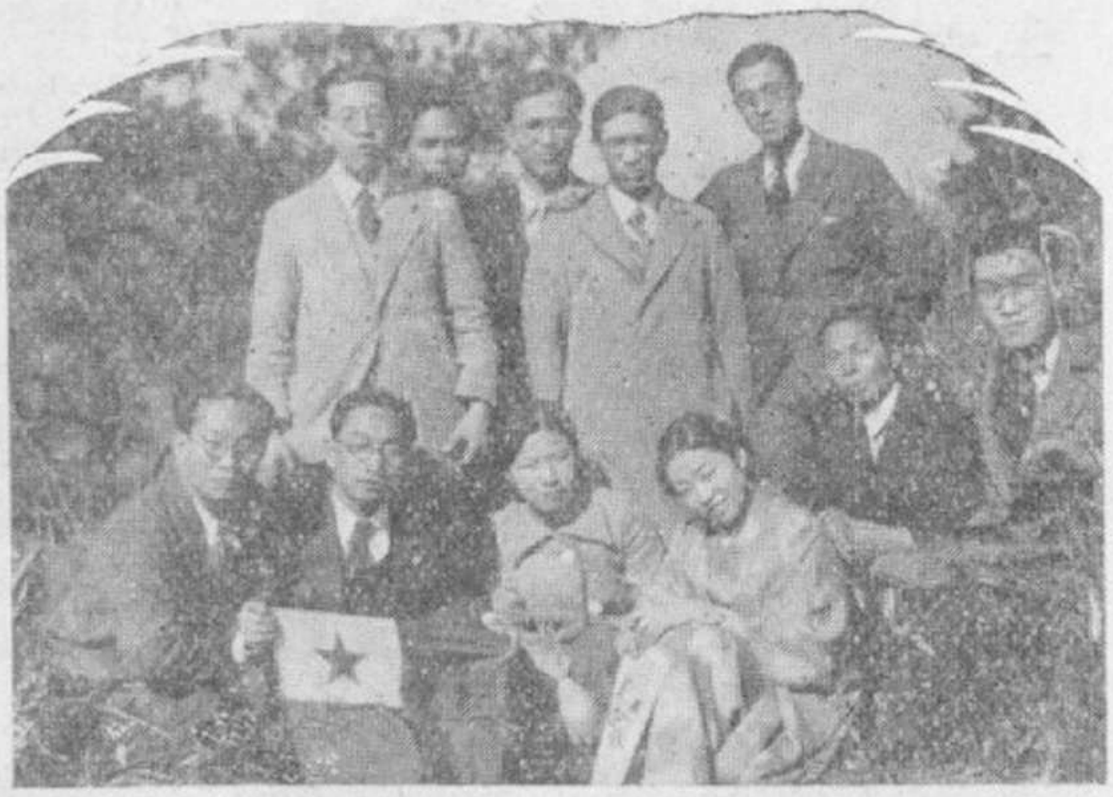
右より〔前列〕高 木、竹中講師、祖父江、〔後列〕松本、橋本、坂井田の諸氏。

大阪　★新星會——週例會＝毎週土曜日19時より“Al Jorento”の鑑賞研究、エス作文の練習。月例會＝毎月 20 日櫻橋農園フルーツパーラー2階にてエス語を主としての談話會、3 月例會前關東軍獨立守備隊無線電信係勤務同志辻本氏の歡迎會を催し新興滿洲國情に就いて話を聽く。機關紙 “Nova Stelo” は都合に依り暫時發行を休む。豫告＝遠足會5月16日(日)、千里山方面及び千里放送所見學、當日9時天六京阪前集合辨當各自持參、多數同志の參加を望む。6 月の週例會から“Homoj sur la tero”の研究。

★SSD エス・ロンド——大阪市西區阿波座下通2の6三省堂大阪支店内にエス・ロンド設立。委員阿部英二郎、百瀨威の兩氏。

岸和田　★岸和田エス會——◇3 月29 日夜2年間餘滿洲で活躍の辻本貢氏(古き同志)の歡迎會と同志岩崎氏の福岡勤務の送別會を兼ねて。同志7人が西田氏のお宅で催しました。今年こそと奮起をもつて直ちに委員選定大いに大計を企てた。毎月2回集合のこと Eĥo を出版することの二つは決定。因に委員は會長中西氏指揮の下に出版委員西田氏會計辻本氏、庶務植田、川崎、出上の三氏である。

京都　★京都エス聯盟——◇4 月5 日比叡へ pikniko。參加者 11 名。白河道より比叡アルポイ縱走。途中木蔭で中食。エス歌練習。根本中堂を經坂下へ下山。大津にて同志を 訪問河原町三條にて散開。尙次回 pikniko は 4 月26 日京阪津合同嵐山へ。



京都エス聯盟ピクニーコ

神戸　★神戸エス協會——◇3 月26日、例會出席者8 名。◇4 月2 日、第一木曜トキワ懇親會出席者 11 名8時頃 Ebner 氏現はれ今日大阪の或る書店で胸に綠星章をつけた人を見たので早速話掛け今日の會合を話して後刻同所にて再會を約し別れたとの話あり。九時過ぎまで待つも來たらず。折柄の雨にうたれて二三打連れ Ebner 氏を萬國波止場まで送る。◇9 日、例會出席者7 名。◇16日、例會出席者8 名。宮本氏文部大臣平生釟三郎、拓務大臣永田秀次郎兩氏に對し當協會名に於て、和エス文の祝辭を送呈してはと動議可決委員附託(前田、宮本)。

★永文堂ロンド——永文堂書房の中等講座は從來通り日曜。父歸る講義。火曜阿彌陀經講義。3 月31日は宣傳の爲永井氏の「阿彌陀の淨土創造精神と人類の新進路」と題する淨土創造講演會を開催。この爲數名の新同志をえたので4 月14日の例會に於て今後の運動の爲科學淨土社 Scienca Elizeo なる會名を選定。近く La Scienca Elizeo 誌を發行。永井氏十數年來の研究獨創全く前人未踏の科學的新淨土經觀を引つさげて釋尊萬年の大淨土創造計劃等の爲エス語による世界的淨土創造運動を開始する事決定。父歸る4 月中に完講。日曜火曜の兩會とも一般同志の參加歡迎。

コレスポンダ・グループ改稱並に移轉
新事務所　神戸市須磨區庄山町2の19
新會名　國際文通協會

戸畑　★戸畑エス會——◇北九州エスペランチスト4 月例會を小倉市魚町ナヲミに開會。九州大會、エス後援會その他の件協議。10 時散會。◇4 月15 日、ザメンホフ忌小集會。

宮崎　★宮崎エスペラント——◇4月1日より初等講習を開く、講師川野繁雄氏、井上エス讀本、參加者7 名。今回は餘り華々しい宣傳は止めてビラ十枚立看4 板枚と新聞丈けにしたが、會員の紹介が利いたのか總て年配の質的に見ても本會として最も收穫ある參加者を見たのは嬉しい。內2 名は中等學校の英語擔任の敎師である。

宇土　★宇土エス會——顧問神尾碧堂氏の御好意で立派な敎室を貸して戴く事になつたので、總會の決議に從ひ、當地エス運動史上に歷史的な第1 回短期講習會を3 月25 日から 10 日間毎夜 19–21 迄開催した。申込は s-roj 8, f-iuoj 6, s-ino 1, grupanoj 3, 計18名。講師市原耿路氏。25日にはエスペーロの合唱後神尾顧問、會長菊川寶城氏、加藤孝一氏(熊本)、市原氏が挨拶をなし、記念撮影をして、今夕は特に加藤氏に講習を依頼する。出席者總數22 名。翌26 日より市原氏が代つ

て講習、4月3日を以て終了したが、4日には復習と接字、助辭の說明後茶話會を催して種々交詢するところあつた。受講者に現小學校長、保姆、宇中配屬將校があつたのは愉快だ。尙、今後は每週月水金の夜19-21同教室でコンスタンタ・クールソをなす。指導市原氏。用書童話讀本、イソツプ、カルロ、中等讀本、ザメンホフ讀本等。

宇土エス會初等講習會

〔中列〕左より市原講師、菊川會長、神尾顧問、加藤、江田の諸氏。〔後列〕本をもてるは西村大尉、左より3人目制服は松本氏。

京城

★4月14日、豐川善曄氏「エスペラントの創案者ザメンホフ博士」なる講演を放送。

街のエスペラント

★氣賀(昭和十年町勢一覽)——靜岡縣氣賀町の町勢一覽四六判24頁寫眞8頁地圖二葉。表紙に Prezentas Belan “Kega-maĉi” とエス語で示してある。同町長助役等エス語に好意をもつてゐるとの事。編纂係永田氏の努力を感謝す。同書希望の向は靜岡縣引佐郡氣賀町役場內統計課宛申込のこと。

★學會評議員靑島友美氏が最近長男をあげられた。坊ちやんのお名前は撰人(エリト)(Elito—選ばれた人物の意)とエス名をつけられた。しかもこれは日本語にも通ずるしその上新撰和エスを裝幀されたのを記念して撰の字をえらばれたといふ。

★電氣エス會の高木氏御夫妻は共に同志であるが今度生れたお孃さんにテルミさんと命名これは同氏が電氣の術語をやつてゐるのでtermino から考へついてつけられたとの事。

★垣內松三氏の國語教育科學双書中の「國語教育の諸問題」中には國際語特にエス語について數頁を費して論じてゐる。

新聞雜誌とエス語

★くろだいや新聞(4月28日)——九州エス語大會記事。

★報知新聞(4月25日)——米國へ親善行脚の美しい振袖使節として磯部幸子さんの渡米記事。

★時事新聞(4月25日)——同上。

★都新聞(4月25日)——同上。

★讀賣新聞(4月25日)——同上。

★中外新報(4月25日)——同上。

★東京日日新聞(4月25日)——同上。

★ジヤパン・タイムス(4月26日)——同上英文記事。

★東京日日新聞(3月31日)——學會主催講習會記事。

★福岡日日新聞(4月18日)——日本文學の世界的進出として文壇有志とエス文學研究會の日本文學飜譯に就ての紹介記事。

★帝都日日新聞(4月19日)——同上。

★東京朝日新聞(4月18日)——同上(ニュース縮刷版に紹介)。

★東京日日新聞(4月3日東京城北版)——誇りの古代神話を世界各國に紹介として露木淸彥氏の神話研究の紹介記事。

★東京日日新聞(3月29日)——醫學博士鈴木淸藏氏の國際語研究超人生活十七年を紹介す。

★くろだいや新聞(4月25日)——大牟田エス會の兒童作品海外紹介記事。

★東京朝日新聞(4月1日北海道樺太版)——札幌に今夏開かれる日本大會記事。

★報知新聞(4月14日)——婦人とエスペラント——磯部幸子孃

★北陸日日新聞(3月27日4月3日、7日)——國際語の必要とエスペラントの話——富山エス會(馬場氏記)

★讀賣新聞(3月21日)——橋本英吉氏の「炭坑」エス譯がロシヤ、ドンバス地方の新聞に掲載。

★北海タイムス(2月18日、26日)——國際友好會のエス語に依る人形交換について。

★小樽新聞(2月20日、3月6日)——同上。

★東京朝日新聞(2月27日北海道版)——同上。

★魁新聞(2月29日)——同上。

★週間朝日(3月8日號)——同上。

★小樽新聞(2月21日)——「エス語の國際性——市川博士への反駁文(福田仁一氏)

★小樽新聞(2月27日)——岡本好次氏、阿

部眞之助氏の「女學校と世界語」を駁す。
★臺灣日日新報（3 月 8 日）——競技用語としてエスペラントを推す。
★筑後新聞（4 月 17 日）——國語と國際語——中川年男氏。
★極東新聞（4 月 20 日）——正課になつたエスペラント——熊本、神尾產婆養成所の紹介記事。
★東京朝日新聞（4 月 2 日）「四歲でペラペラのエス語坊」寫眞入りで同志田中久夫氏の實君を紹介。
★大阪朝日新聞（4 月 2 日）——同上。
★The Tokyo Nichi Nichi（4 月 8 日）——同上英文記事。
★中信時報（4 月 11 日）——東京府立第六高女のエス語クラス紹介記事
★夕刊帝國（4 月 7 日）——同上。
★東京日日新聞（4 月 7 日東京城北版）——同上。
★養蜂の日本（109 號 38-39 頁）——蜜蜂轉飼取締規則のエス譯。
★片町ニュース（4 月 17 日發行）——「裏日本は汚ないか」の文中エス運動を紹介——由比忠之進氏。
★世界と女性(四月號)——エスペラント講座——田沼利男氏、短い會話——磯部幸子孃。
★寫眞報國(第九十八號)——エスペラントで世界的に寫眞蒐集——小林淸氏。
★外語同窓會誌（2 月 1 日）——エスペラント創案者ザメンホフ祭に就いて。
★鐵道公論（4 月 25 日）——歐米ところどころ旅愁の憶ひ出——井上萬壽藏氏。
★十勝每日新聞（4 月 14-18 日）——戰車とエスペラント——佐藤松男氏。
★臺灣新文學——„La Formasa Nov-Literaturo“ なる表題を付す。
★臺灣新民報（4 月 24 日）——海外小語欄にエス語通信による結婚を紹介。
★生活學校(第二卷三號)——教育とエスペラント——佐藤忠三郎氏
★教育、國語教育 5 月號（厚生閣）——教育問題としてのエスペラント——石黑修氏、外國文化の日本紹介——中野重治氏。
★新劇人（4 月號）——演劇とエスペラント——大岩洋太郎氏。
★願慧(4 月 3 日)——曉鳥敏氏著エス譯„日本精神“ 新刊廣告。
★十勝新聞（3 月 25 日）——講習會についての記事。
★十勝每新日聞（3 月 28-29日）——エスペラントは我々のものである——佐藤松男氏。
★三重縣民新聞（4 月 30 日）——工藤鐵男氏とヤートフ女史についての話。
★Rômazi Sekai（5 月號）——エス語を創つたザ博士の生涯——三宅史平氏。

地方會機關誌その他

Spaco 節約のため內容中分量多きもの特色あるもの二三を紹介。大さ明記なきは半紙半截型とす。

★**Fervojisto**（1 月號）（鐵道聯盟）菊判 16 頁。——英學者の錯覺（高橋）、本號から車輛術語(Terminaro de Fervojaj Veturiloj) を連載（根本潔）される。將來の爲大いに有用と考ふ。
★**Fervojisto**（2-3 月號）菊 16 頁。——觀光事業を中心にして（井上）、FER 大會上演「春宵綠色夢」。
★**Fervojisto**（4 月號）菊 16 頁。——エス文學（中垣）、Dizel-elektra lokomotivo（寺田）、Al la kongreso de esp-istaj fervojistoj (Marin)。
★**MER**（1 月號）（盛岡）11 頁。——Zamenhofa festo（島貫）。
★**MER**（2 月號）——Vengo de S-ro Rio（田畑）。
★**Majo** (renovigita 1 號)（神戶）14 頁。——Kiel statas proleta literaturo en Japanio?
★**Provo**（3-4 月號）（市原個人誌）菊判 8 頁。——日本同志諸氏に懇ふ。
★**Bukedo**（3 號）47-77 頁。——Nia devo kaj virinaj rondoj en Jap.（村上）。Nia radio
★**Grandurso**（9 號）（苫小牧）11 頁。——道外同志に懇ふ（鈴木）。
★**Ora Delfeno**（名古屋）（1 號）17 頁。——Malpeza amo（竹中）。
★**Ora Delfeno** 2 號。17 頁。——Dialekto de Nagoja.
★**Verda Haveno**（橫濱）（2 月號）7 頁。——橫濱エス運動資料。
★**Elektrujo**（5 號）8 頁。電氣術語（續）。
★**Verda Minejo**（創刊號）（大牟田エス會誌）8 頁。——九州大會準備號ザメンホフ追憶號を兼ぬ。Post la Granda milito, 大會にのぞむ、Libera angulo 等。
★**Medusa**（創刊號）（奉天長坂氏個人誌）本文 76 頁。——エス文許りの堂々たるもの。Ĉu alkoholaj trinkaĵoj estas venenaj? Karbminejo. Krakantaj montoj, Japano parolas kun rusoj elkurintaj de la Sovetio, Japano kaj

（以下 20 頁へつゞく）

若き北海道の野に

第二十四回日本エスペラント大會
（第五回北海道エスペラント大會）

今夏八月八、九、十日札幌に開かる

日本エスペラント大會回を重ねること既に二十三回、我等が同志は地を求め、友を求めて、飜へる綠星旗の下に議を練り、聖火を焚きて、その運動の前進を約し來れり。

しかし、その綠星旗中央以南の地を巡ること久しく、北日本の地に於ては大正十三年第十二回大會が仙臺に開かれたる唯一度のみ、我等その開かうとして開き得ざりし理由をよく知り、又自らの無力なりしをよく知れりと雖も、日本エスペラント運動史の一頁にその名を止めんと希ひしこと久しかりき。機を得澎湃たる全道同志の聲に應へ得て、玆に北海道エスペラント聯盟の名に於て第二十四回大會を招待するの榮を有するに至れり。我等今や迫りつつある大會を前に、全道の同志熱情の一塊となりてその準備に日夜を送れり。

乞ふ、全日本の同志諸兄姉よ！遠きより近きより來りて會し、若き北海道の地に打ち建てられたる聖旗を守られんことを！

★ 日　　程 ★

第 1 日　8月8日（土）札幌グランドホテル
- 10.00　受付開始
- 12.30–14.00　大會發會式
- 14.00–14.30　記念撮影
- 14.30–16.00　日本エス學會總會
- 16.00–18.30　大會協議會
- 19.00–　懇親晩餐會

第 2 日　8月9日（日）
- 9.00–10.30　第五回北海道エスペラント大會
- 10.30–12.30　分科會
- 12.30–13.30　晝食
- 13.30–14.30　分科會報告
- 14.30–16.30　大會大學
- 19.00　普及講演會

第 3 日（月）
- 支笏湖へ Ekskurso

★ 參加申込 ★

大會參加希望者は可及的早く下記事項書込の上お申込下さい。尙出席出來なかつた方には記念品を贈ります。

1. 氏名（フリガナツキ）。 2. 職業（學校名）。 3. 所屬エス會。 4. 住所。 5. 札幌驛到着豫定日時。 6. 滯在豫定何日間。 7. 宿舍要不要。 8. 晩餐會參加不參加。 9. Ekskurso 參加不參加。 10. 送金內容。

★ 協議事項 ★

大會協議會協議事項は、議題と提案責任者の氏名住所を記し準備委員會宛 7 月 10 日まで御申込下さい（當日消印あるものは有效）。それ以後は謝絶いたします。

★ 分 科 會 ★

大會分科會を持たれる向は、成るべく大會前迄に會名責任者氏名住所を記し申込下さい

★ 寄 附 金 ★

大會を支持して下さる意味にて、多少なりとも諸氏の御寄附を拜受いたします。

★ 地方會代表挨拶 ★

時間の關係上三分以內に願ひます。代表者は所屬會の委任狀を御持參下さい。

★ 參加費用概算 ★

1. 參加費 50 錢。 2. 晩餐會費 1 圓 50 錢。 3. Ekskurso（晝食付）2 圓 50 錢。 4. 記念寫眞代 30 錢。 5. 宿泊（一泊朝食付）1 圓。

大會參加、協議事項、分科會の申込、その他すべての照會等は、札幌市南四條西十四丁目相澤治雄方第二十四回日本エスペラント大會準備委員會（振替小樽 18763 番）宛のこと。

エスペラント運動後援會報告

エスペラント運動は常に前進しつつあります。そして此の運動が經濟的な點から、その正常な發展をはばまれることは私達エスペランチストにとつて非常に遺憾なことであります。ここにおいて Revuo Orienta の先月號にて既に公表せる如き「趣意」によつて、**エスペラント運動後援會**が設立されました。その趣旨や、會規の詳細は皆様の御承知の通りであります。そして今後本誌上で毎號、本會の活動の報告を致すことになりました。

設立の經緯

昭和 10 年 12 月 22 日

日本エスペラント學會事務所にて、理事評議員會を開催。會議事項の重要なる一項目に久保特使九州巡遊報告があつた。九州 14 都市 19 地方會をめぐつて、各地方會から提出された學會への希望要項 71 箇條の中の一箇條に「宣傳後援會といつた種類のものを設立して、財政的に學會の現在の宣傳の仕事を援助する件」があつた。これは長崎、大牟田、熊本、宮崎等は最も積極的に支持してをつた提案であり、反對した地方會はなかつたので特使はこの報告と共にこの問題に關する討議を希望した。結局原則的には結構といふことで、尙詳細の具體案を練ることとなり具體的詳細の原案起草其他は、小坂理事久保評議員が研究することになつた。

1 月 26 日　學會にて、理事會。大石理事長他多數の理事出席。數日前小坂、久保、兩氏がいろいろ案をねり作製された草案を各項目毎に討議。相當の修正を經て、趣旨書、會規の決定をみる。

2 月 14 日　學會大石理事長他 15 人の役員連名で全國各地の中心的同志に會の設立を報じ發起人たることを懇請する。

2 月 14 日——3 月末日　發起人承諾の通知續々あつまる。3 月末日に 188 名に達する。

4 月 1 日　R. O. 4 月號に 趣意書、會規發表。一般の參加を希望。同時に加入申込を受付ける。

4 月 19 日　「組織」第五項に依り學會理事長より次の人々が幹事を依囑され、夫々受諾。美野田琢磨、小坂狷二、三石五六、井上萬壽藏、伊藤巳酉三、久保貞次郎、大木克巳、矢島英男、伊藤武雄、高橋肇、原田三馬、酒井鼎（12 名）

4 月 26 日　第一回幹事會。全國的各地からの加入申込の殺到と共に幹事會の成立をみて本會も愈々その活動にのり出す。

先づ申込の現在狀況の報告が臨時の會計庶務幹事原田氏よりある。

（金額、圓）

寄附申込（納入濟）	660.04
寄附申込（未　濟）	248.00
合　　計	908.04
會 員 數	109 人

種々會務遂行上の意見の交換が行はれた。殊に宣傳事業を如何なる方法によつてなすかの具體案は、幹事各自よりも夫々提出されたが、結局、先づ全國各地の計畫委員並びに會員の意見をきき、その上で細目の計畫と豫算を編成することに決定。其他の決定事項

(1) 幹事會は原則として毎月 1 回開催。

(2) 幹事は會務を分擔する。(決定したもののみ)

1. Revuo Orienta に報告する係（高橋）
2. 庶務會計（原田）

(3) R. O. 三月號及び四月號にて報導されてある「衆議院議員候補者に對するエスペラント語に就いての問合せ」及び「パーマー博士送別會」は、非常な効果をおさめた。いづれ前者はその回答をまとめてパンフレツトにすることが考へられてゐるが、この宣傳に要した費用は本會で負擔することを可決した。

4 月 29 日　計畫委員及び會員に本會の事業計畫、その豫算の編成に就き問合せを發送。

——5 月 4 日記——

運動後援會發起人氏名追加

（五十音順）（前月號發表後の分）

東京市	武居哲太郎	
	松本健一	
	三島章道	
仙臺市	松隈健彦	
京都市	櫻田一郎	
神戸市	加藤正美	
	宮本新治	
臺北市	武上耕一	

寄附申込總額 1054 圓（5 月 10 日現在）

ESPERANTO 運動擴大 KAMPANIO

！贈呈用學習書特賣！

今やエスペラントはジェルナリスモの波に乘り話題の中心に浮上つた。この機を逸せず運動を擴大せよ！

エスペラントに關心を持つ者は今や全國到るところに滿充ちてゐる。これを說伏せよ，これに學習書を與へよ，しかてこれを獲得せよ。

特　賣　規　定

1. 下記特價は「**贈呈**」**用に限り**，自家用のものは定價どほり申し受ける。
2. **特價品**には「贈呈」と印刷した用紙に，贈呈者の氏名を記入し，本會から贈呈を受ける人に**直接送付**する。
3. **特價期間**は**六月末日**まで。

「エスペラント捷徑」または「エスペラント講座」

各定價 50 錢（送料 4 錢）；**特價 40 錢（送料不要）**
五册以上：各 35 **錢**（送料不要）；**十册以上**は御相談あれ

「エスペラント捷徑」又は「エスペラント講座」と「新撰エス和辭典」

二册一組定價 1 圓 10 錢（送料 8 錢）；**特價 90 錢（送料不要）**
五組以上：各組 75 錢（送料不要）：**十組以上**は御相談あれ
「新撰エス和辭典」**特製版**（インヂアン・ペーパー刷）を希望の際は，一組 **1 圓 5 錢**；**五組以上**は各組 **85 錢**

「エスペラント捷徑」(又は「エスペラント講座」と「新撰エス和辭典」と「新撰和エス辭典」

三册組定價 3 圓 60 錢（送料 12 錢）；**特價 3 圓（送料不要）**
五組以上各組 **2 圓 75 錢**（送料不要）；**十組以上**御相談下さい。

財團法人 **日本エスペラント學會**
東京本鄉元町一ノ一三・振替東京 11325 番

同志は一人殘らず KAMPANIO に加れ

AELA お待ちかねの 1936年度細目發表

よい書物をやすく賣る會こして評判の AELA の本年度細目發表がしばらくおくれてゐましたが，いよいよ下記の通り發表されました。今年度のには，わが Japana Antologio もおさめられてゐます。特價豫約締切におくれないよう至急お申込みください。

1. Vallienne : ĈU LI? （約四百頁）

エスペラントの最初の原作小説として知られる歴史的作品であるが，古く絶版となり，手に入りがたかつたもの。文體平易，波瀾重疊の物語で今日讀んでも興味新しい讀物である。

2. JAPANA ANTOLOGIO （菊判約五百頁）

エスペラント文學研究會の編輯になるもの。

3. A. Schrenzel: ABISENUJO （菊判約三百頁）

今日の世界中の話題の中心——エチオピアについての書物中最もすぐれたもの。多數の美しい挿繪入り。

4. Sinclair Lewis : Dr. ARROWSMITH

全二卷・約八百頁

アメリカの文豪として知られるルイスが，これによつて，アメリカで最初のノーベル文學賞を獲た，現代アメリカ文學の最大雄篇である。

5. S. Bergmann: MERKURELL（約三百頁）

現代スエーデン最大の小説家として名聲高いベルクマンの最傑作の諷刺小説。

2,300 頁の新刊書＝八圓

AELA—1936 年 規 定

六月一日までの拂込： **特價**（普通送料共）**八圓五十錢**
國際返信切手代用ならば 52 枚

特　典： 1. AELA 會員は，その年度中，Literatura Mondo 發行書を**定價の 2 割引**で買求めることができる。

2. AELA 會員は，季刊雜誌 “**Lingvo Libro**” を每號**無料**で**配布**される。

3. **六月一日以前拂込者**は，正規の配本の他に Literatura Mondo の發行書（4 sv. fr.）のものを**自由選擇**の上**配布**を受けることができる。

書　留： 書留送付希望は**一圓十錢**（または返信切手 7 枚）增
上　製： **二圓二十錢**（または國際返信切手代用 13 枚）增
優良紙印刷： **一圓三十錢**（國際返信切手代用なら 9 枚）增
同上革表紙： **四圓八十錢**（國際返信切手代用なら 30 枚）增

六月一日以後は十圓・全部發行後は十六圓

東京本郷元町
申込所　財團法人　**日本エスペラント學會**　電話小石川 5415 番 振替東京 11325 番

新 着 洋 書 案 内

La Rochefoucauld: MAKSIMOJ

菊判 110 頁・定價 1 圓 20 錢・送料 4 錢

「自我愛及び利己的利害は人間行爲の主要動機である，從つて道德は利己的計算の結果である」とする，十七世期功利論の首領の名高い Maksimoj ——政治生活に於ては失敗したがその生活體驗から生れた本書はフランスの文學と思想の上に大きな影響を殘してゐる。このエスペラント譯はフランス語との對譯になつてゐるから，フランス語學習者にとつては，特に便利である。

L. Sinha: HINDO RIGARDAS SVEDUJON

菊判 200 頁・定價 2 圓 40 錢・送料 6 錢

著者は詩聖タゴールの高弟。この若いインド人がエスペラントを用ひて，三ケ年にわたり，その隅々まで旅行し，あらゆる階級にはいつて行つて具さに觀察したスエーデン觀。最上等の用紙に美しい風景，風俗の寫眞數百葉を入れた，興味深い原作書。

F. Azorin: Universala Terminologio de la Arkitekturo

大型四六判 216 頁・定價 4 圓 20 錢・送料 6 錢

考古學，美術，建築等に關する專門語彙 2,000 に對し，各語に挿畫（合計 2,000 個）と，サンスクリト，ラテン，ゴート，アラビヤ，ヘブライ等々十五ケ國語中の 6 乃至 8 ケ國語の原語を加へ，さらにエスペラントで解說を添へたもの。

建築家はもとより，考古學，美術，歷史研究家はぜひ備へる必要がある。

N. VAN HICHTUM: KUDLAGO

四六判 40 頁・定價 50 錢・送料 2 錢

本書はオランダの作家がエスキモーの生活を描いた少年物語であるが，その少年物語としてのおもしろさ以外に，エスキモーの生活の描寫が深い興味を與へる。

東京本郷元町・一　財團法人 日本エスペラント學會　電話小石川 5415 番 振替東京 1.1325 番

«PLENA VORTARO»

大　價　下

«Plena Vortaro» は定價 60 fr. fr. (時價 13 圓 50 錢) のところを 6 圓で取次いでゐました　これさへ，爲替相場に照してすでに驚異に價する廉價でありますが，なほ一般エスペラント大衆にとつては幾分大きな負擔と思はれますので發行元と種々交涉中のところ，發行元でも製產實費の回收の見通しがほぼついたので，非常に大量の一時仕入を條件に，高度の割引をしてくれることになりました。本會では，從來の割引率と新協定の割引率との差額に，さらに割引を加へ（卽ち從前より遙かに低率の純益により）大々的に犧牲的値下を斷行することにいたしました

しかし，何分にも上述のやうに非常に大量の仕入が條件となつてをりますので，第一回の入荷品の賣行が思はしくないばあひは次回以後は，大量仕入ができなくなり，舊定價に復することになるおそれがあり，また經濟界の事情の變化によつては，何日價上げをすることになるかもわかりませんから至急御注文下さい。

舊定價六圓・新定價四圓五十錢・送料二十一錢

新　着　洋　書

Axel Munthe: ROMANO DE SAN MICHELE

四六判 520 頁・定價 3 圓・送料 10 錢

偉大な人間認識，優れた藝術，橫溢するユーモア，それが渾然と融和した大作。全卷五百二十ページ，笑と涙とにあふれて息をもつがせない。

J. Sumin kaj R. Svobodova: DU NOVELOJ

四六判 82 頁・定價 80 錢・送料 4 錢

理想と現實の相剋の中から，なまなましい問題を取上げて婦人の生存權擁護のため戰ふ Sumin と，高い敎養と優れた才能によつて女の進む道を示す Svobodova と，二人のチェコ女流作家の代表作的名篇。

東京本郷元町・一　財團法人 日本エスペラント學會　電話小石川 5415 番　振替東京 11325 番

エスペラント・六月號内容

定價20錢・送料5厘

全國各地の書店にあり・一年分前金送料共2圓30錢

二葉亭の讀本で ……藤田穐三

三十年以前にはエスペラントをどんな本で獨習したか。堂々六ペイヂにわたる特別讀物。

ジャンヌ　ダルク ……ウファ映畫物語

ナチス・ドイツ映畫藝術の最高到達點を示すウファ本年度超特作品。寫眞數葉入，註付エス文讀物。

日食のエスペラント ……日食に關する單語と文例

前置詞略解・ĈE ……小坂狷二

初等，中等の人々のための親切な前置詞講義。

語根の品詞別 ……岡本好次

單語および合成語理解の根底となる語根の知識。

目的叙述語 ……倉地治夫

エスペラント作文の基礎となる文法語法の知識。

報　酬（詳註初等よみもの）……フランドルの寓話

讀書感想 ……中垣虎兒郎

讀者の自由作文に對する親切明快な指導。

科學概論から……三宅史平

八ポ五ペイヂにわたる詳細を極める講評。

世界各國のエスペラント運動 ……高木弘

エスペランチストは誰もが必ず知らなければならない世界各國のエスペラント運動の現狀。

東京本郷元町　財團法人 日本エスペラント學會　振替東京11325番

昭和十一年五月一日發行（毎月一回一日發行）
ラ・レヴオ・オリエンタ（エスペラント研究）第十七年第五號

定價十錢（送料一錢）

編輯發行人

右代表者 大井